

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

農 薬 抄 録

クロラントラニリプロール

(殺虫剤)

(作成年月日) 平成19年 7月 3日
平成20年 1月25日 改訂
平成20年 7月29日 改訂
平成20年10月 3日 改訂
平成22年 5月12日 改訂
平成26年 7月 7日 改訂
平成27年 5月27日 改訂
平成29年 4月28日 改訂
平成30年 5月30日 改訂

(作成会社名) : エフエムシー・ケミカルズ株式会社

(作成責任者・所属) 農業製品事業部

連絡先 :	エフエムシー・ケミカルズ株式会社
担当部課 :	農業製品事業部
担当者名 :	
電話番号 :	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

目 次

	頁
I. 開発の経緯	I-1
II. 物理的・化学的性状	II-1
III. 生物活性	III-1
IV. 適用及び使用上の注意	IV-1
V. 残留性及び環境中予測濃度算定関係	V-1
VI. 有用動植物等に及ぼす影響	VI-1
VII. 使用時安全上の注意、解毒法等	VII-1
VIII. 毒性	
<毒性試験一覧表>	VIII-1
1. 原体	
(1) 急性毒性	VIII-7
(2) 皮膚及び眼に対する刺激性	VIII-11
(3) 皮膚感作性	VIII-15
(4) 急性神経毒性	VIII-18
(5) 90日間反復経口投与毒性	VIII-25
(6) 反復経口投与神経毒性	VIII-48
(7) 1年間反復経口投与毒性及び発がん性	VIII-55
(8) 繁殖毒性及び催奇形性	VIII-94
(9) 変異原性	VIII-107
(10) 生体機能影響	VIII-123
(11) 参考資料	VIII-128
2. 原体混在物及び代謝物	VIII-150
3. 製剤	VIII-158
IX. 動植物及び土壌等における代謝・動態	
<代謝・動態試験一覧表>	IX-1
<代謝分解物一覧表>	IX-5
1. 動物代謝	IX-9
2. 植物代謝	IX-32
3. 土壌中動態	IX-62
4. 水中動態	IX-81
5. 土壌吸着性	IX-96
<代謝・動態のまとめ>	IX-102
<動植物、土壌及び光における代謝分解経路>	IX-104
<代謝・動態の概要>	IX-105
[附] クロラントラニリプロールの開発年表	附録

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

I. 開発の経緯

クロラントラニリプロールは米国デュポン社により
に選抜されたアントラニリックジアミド (Anthranilic Diamide) 系の新規殺虫剤である。

本剤は既存剤とは異なる新規骨格の化合物であり、米国デュポン社における広範囲な研究及び開発の結果、
にチョウ目、ハエ目及び一部のコウチュウ目害虫に活性の高い最初のリード化合物が合成された。このリード化合物の類縁化合物群の中で高い殺虫活性を示す化合物群より、毒性・残留性等の観点から安全性の高い化合物として

にクロラントラニリプロールが選抜され、全世界的に開発活動が開始された。

日本では、デュポン株式会社が DKI-0001 フロアブル (5%)、DKI-0002 フロアブル (10%) 及び DKI-0003 粒剤 (1%) の試験名で、(社)日本植物防疫協会を通じて
より委託試験を開始した。その結果、本剤は野菜・大豆・茶・果樹・水稲などのコナガ・ハスモンヨトウ・オオタバコガ・ハモグリバエ類・チャノホソガ・モモシクイガ・コブノメイガなど主要害虫に卓効を示し、チョウ目害虫及びハエ目害虫の防除剤として高い実用性が確認された。

また、毒性や代謝、生態影響などの試験を
から、作物残留性や土壌残留性、水質汚濁性などの試験を
から実施し、その安全性が確認された。本剤は野菜・茶・果樹・水稲などのチョウ目害虫及びハエ目害虫の防除剤として農作業の効率化に貢献できると判断し、
に商品化へ向けて農薬登録申請を行った。平成 21 年 (2009 年) に登録され、その後、複数回にわたり適用拡大申請を行っている。

海外では、米国、カナダ、オーストラリア及び EU が OECD Global Joint Review に参加し、平成 19 年 (2007 年) 1 月より米国、カナダ、オーストラリア及び EU を代表して英国とアイルランドによるクロラントラニリプロールの評価が行なわれた。平成 30 年 (2018 年) 5 月現在、米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、中国、韓国、フィリピン、イタリア、アルゼンチン、インド、ベトナム、サウジアラビア、ルーマニアをはじめとした中南米諸国、アジア諸国、中東諸国、東欧を含む欧州諸国等において、野菜、果樹、いも類、豆類、ワタなど幅広い作物のチョウ目害虫、ハエ目害虫の防除剤として登録されている。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

【国内・海外の評価状況】

(1) 国内の評価状況

2008年に開催された食品安全委員会において評価され、ヒトの1日当たり最大許容摂取量(ADI)は0.26 mg/kg 体重/日と設定された。その後、2017年の食品安全委員会においてヒトの1日当たり最大許容摂取量(ADI)は1.5 mg/kg 体重/日(注)と設定されている。また、クロラントラニプロールの単回経口投与等により生じる可能性のある毒性影響は認められなかったため、急性参照用量(ARfD)は設定する必要がないと判断されている。

食品安全委員会の経緯

	食品安全委員会(内容)	開催日
第1版	第257回(報告)	2008年10月9日
第2版	第386回(報告)	2011年6月16日
第3版	第453回(審議)	2012年11月12日
第4版	第519回(審議)	2014年6月24日
第5版	第641回(報告)	2017年3月7日

(注) ADI設定根拠試験: マウスを用いた18ヵ月間発がん性試験(資料 毒13)

最大無作用量: 158 mg/kg

安全係数: 100

(2) 海外の評価状況

海外安全性評価におけるADIを以下にまとめる。

機関・国	評価年	ADI (mg/kg/日)	無毒性量		安全 係数	出典
			試験	mg/kg/日		
JMPR	2008	0-2	マウス18ヵ月間 発がん性試験	158	100	JMPR Pesticide residues in food 2008
米国	2008	1.58	マウス18ヵ月間 発がん性試験	158	100	US EPA Memorandum, 3/7/2008
EU	2013	1.56	ラット慢性発がん性 併合及びマウス18ヶ 月発がん性試験	156	100	Conclusion on the peer review of the pesticide risk assessment of the active substance chlorantraniliprole
オースト リア	2008	1.58	マウス18ヵ月間 発がん性試験	158	100	Public Release Summary on Evaluation of the new active chlorantraniliprole in the products DUPONT CORAGEN INSECTICIDE, DUPONT ALTACOR INSECTICIDE, DUPONT ACELEPRYN INSECTICIDE

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

海外における ARfD (急性参照用量) を以下にまとめる。いずれの機関・国においても ARfD 設定不要と結論されている。

機関・国	評価年	ARfD (mg/kg)	出典
JMPR	2008	設定不要	JMPR Pesticide residues in food 2008
米国	2008	設定不要	US EPA Memorandum, 3/7/2008
EU	2013	設定不要	Conclusion on the peer review of the pesticide risk assessment of the active substance chlorantraniliprole
オーストラリア	2008	設定不要	Public Release Summary on Evaluation of the new active chlorantraniliprole in the products DUPONT CORAGEN INSECTICIDE, DUPONT ALTACOR INSECTICIDE, DUPONT ACELEPRYN INSECTICIDE

各機関・国の評価における ARfD 設定不要の根拠を以下にまとめる。

機関・国	出典及び ARfD 設定不要の根拠
JMPR	出典名 : JMPR Pesticide residues in food 2008, p.129 The Meeting concluded that it was not necessary to establish an ARfD for chlorantraniliprole in view of its low acute toxicity, the absence of developmental toxicity, and the absence of any other toxicological effects that would be likely to be elicited by a single dose.
米国	出典名 : US EPA Memorandum, 3/7/2008, P27 No acute hazard attributable to a single dose was identified; therefore, an acute dietary endpoint was not selected for quantitative risk assessment.
EU	出典名 : Conclusion on the peer review of the pesticide risk assessment of the active substance chlorantraniliprole, EFSA Journal 2013;11(6):3143, page 7 No acute reference dose (ARfD) is allocated as it was considered not necessary. 出典名 : Project 'Anna-Livia' Chlorantraniliprole (DAR), December 2008, page 416 Based on the toxicological profile of Chlorantraniliprole, an acute reference dose (ARfD) is not required. Chlorantraniliprole did not produce any effects following acute or subacute dosing in the broad array of mammalian toxicity studies conducted, including evaluations for systemic toxicity, genotoxicity, reproductive toxicity, developmental toxicity, neurotoxicity, and immunotoxicity.
オーストラリア	出典名 : Public Release Summary on Evaluation of the new active chlorantraniliprole in the products DUPONT CORAGEN INSECTICIDE, DUPONT ALTACOR INSECTICIDE, DUPONT ACELEPRYN INSECTICIDE, 2008, P9 Acute Reference Dose (ARfD) Establishment of an acute reference dose is not justified for chlorantraniliprole based on the lack of identified hazard in the acute oral toxicity study which reported LD ₅₀ value of >5,000 mg/kg in female CrI:CD (SD) IGS BR rats.

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

II. 物理的・化学的性状

1. 有効成分の名称及び化学構造

1) 一般名

和名： クロラントラニリプロール (ISO名)

英名： chlorantraniliprole (ISO名)

2) 別名

試験名： DPX-E2Y45

3) 化学名

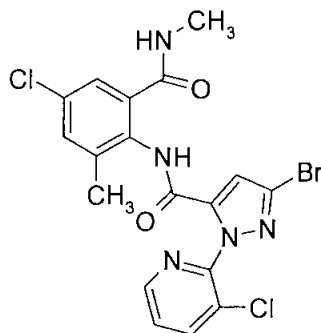
和名： 3-ブロモ-N-[4-クロロ-2-メチル-6-(メチルカルバモイル)フェニル]-1-(3-クロロピリジン-2-イル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド (IUPAC名)

3-ブロモ-N-[4-クロロ-2-メチル-6-[(メチルアミノ)カルボニル]フェニル]-1-(3-クロロ-2-ピリジニル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド (CAS名)

英名： 3-bromo-N-[4-chloro-2-methyl-6-(methylcarbamoyl)phenyl]-1-(3-chloropyridin-2-yl)-1H-pyrazole-5-carboxamide (IUPAC名)

3-bromo-N-[4-chloro-2-methyl-6-[(methylamino)carbonyl]phenyl]-1-(3-chloro-2-pyridinyl)-1H-pyrazole-5-carboxamide (CAS名)

4) 構造式



5) 分子式

$C_{18}H_{14}BrCl_2N_5O_2$

6) 分子量

483.15

7) CAS No.

500008-45-7

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

2. 有効成分の物理的・化学的性状

項目	測定値	測定方法	試験機関 (報告年/GLP)
1) 外観・臭気	色調：類白色 形状：結晶性粉末 臭気：無臭	官能法	(GLP)
2) 密度	1.5070 g/cm ³	20°C ピクノメーター法 OECD 109	(GLP)
3) 融点	208～210°C	金属ブロック法 OECD 102	(GLP)
4) 沸点	測定不能 (330°Cで分解)	示差走査熱量測定法 OECD 103	(GLP)
5) 蒸気圧	6.804×10 ⁻⁷ Pa 以下 〔アントワン式による計算値〕 6.3×10 ⁻¹² Pa (20°C) 2.1×10 ⁻¹¹ Pa (25°C)	80°C 気体流動法 OECD 104	(GLP)
6) 溶解度	水 1.023mg/L	20°C フラスコ振とう法 OECD105	(GLP)
	アセトン 3.446g/L		
	アセトニトリル 0.711g/L		
	酢酸エチル 1.144g/L		
	ジクロロメタン 2.476g/L		
	ジメチルホルムアミド 124g/L		
	n-オクタノール 0.386g/L		
	メタノール 1.714g/L		
	n-ヘキサン <0.1mg/L		
o-キシレン 0.162g/L			
7) 解離定数 (pKa)	10.88	20°C 分光光度法 OECD 112	(GLP)
8) 分配係数 (logPow)	2.76	20°C フラスコ振とう法 OECD 107	(GLP)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

項目	測定値	測定方法	試験機関 (報告年/GLP)
9) 安定性	①熱：330℃まで安定	示差走査熱量測定法 OECD 103	
	②加水分解性： pH4 安定 pH7 安定 pH9 半減期 10日	25℃ OECD 111	(GLP)
	③水中光分解性： 滅菌緩衝液 (pH7) 半減期 0.37日 自然水 半減期 0.31日	25℃ キセノンランプ° 456W/m ² 300～800nm 12 農産第 8147 号 EPA N-161-2	(GLP)
10) 土壌吸着 係数	$K_{Foc} = 100.1 \sim 526$	20℃ OECD 106	(GLP) (GLP)

11) UV、赤外、MS、NMR (H-, C-) 等のスペクトル

図 1 から図 4 に示す。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

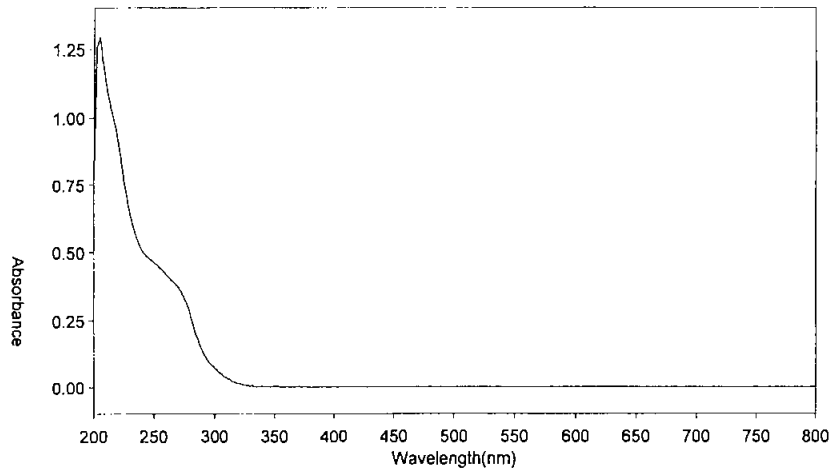


図 1-1 クロラントラニプロールの酸性条件下メタノール中 UV/VIS スペクトル

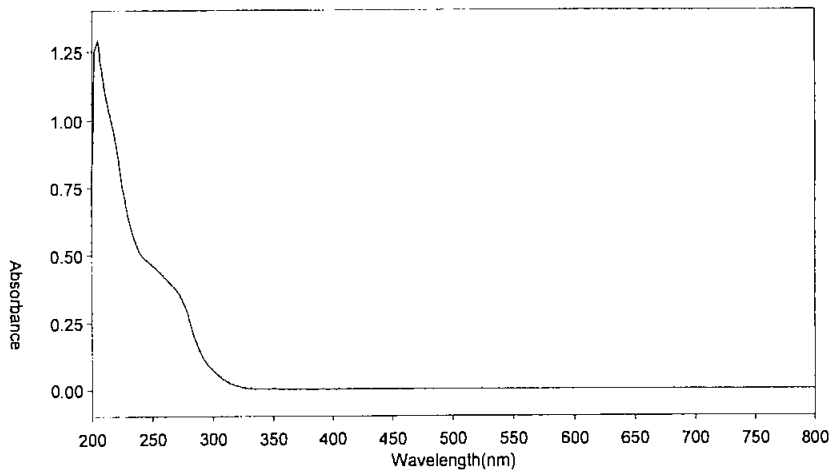


図 1-2 クロラントラニプロールの中性条件下メタノール中 UV/VIS スペクトル

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

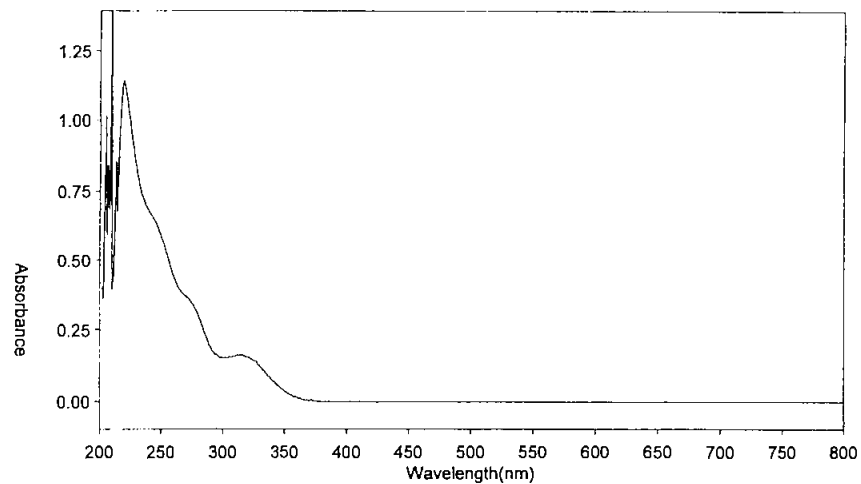


図 1-3 クロラントラニリプロールの塩基性条件下メタノール中 UV/VIS スペクトル

溶媒	極大吸収波長 (nm)	モル吸光係数 ($M^{-1}cm^{-1}$)
酸性	—	3941 (290 nm)
中性	—	4185 (290 nm)
塩基性	320	5013 (320 nm)

試験機関：

試験年：

測定方法： OECD 101

使用機器： ダブルビーム型紫外可視分光光度計 UV300 (Thermospectronic 社製)

使用溶媒： 酸性 (pH2 以下) メタノール/1M 塩酸 (9/1、v/v)

中性 (pH7) メタノール

塩基性 (pH10 以上) メタノール/1M 水酸化ナトリウム (9/1、v/v)

測定範囲： 200~800nm

光路長： 1cm

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

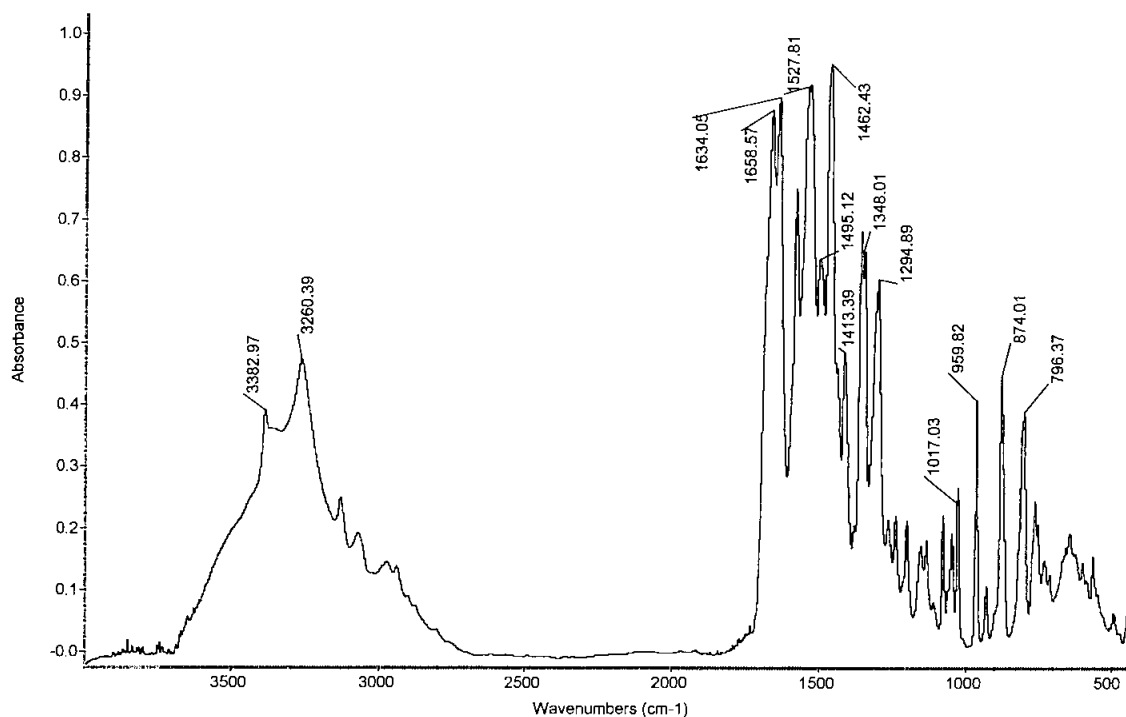


図2 クロラントラニリプロールの IR スペクトル

スペクトル中の 吸収帯 (cm ⁻¹)	帰属
3382.97	N-H
3260.39	N-H
1658.57	C=O
1634.05	C=O
1495.12	CH ₃ -N
1462.43	CH ₃ -N

試験機関：

試験年：

使用機器： フーリエ変換赤外分光光度計 Avatar 360 (Nicolet 社製)

測定方法： KBr 錠剤法/吸光度測定

分解能： 4cm⁻¹

測定範囲： 4000～400cm⁻¹

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

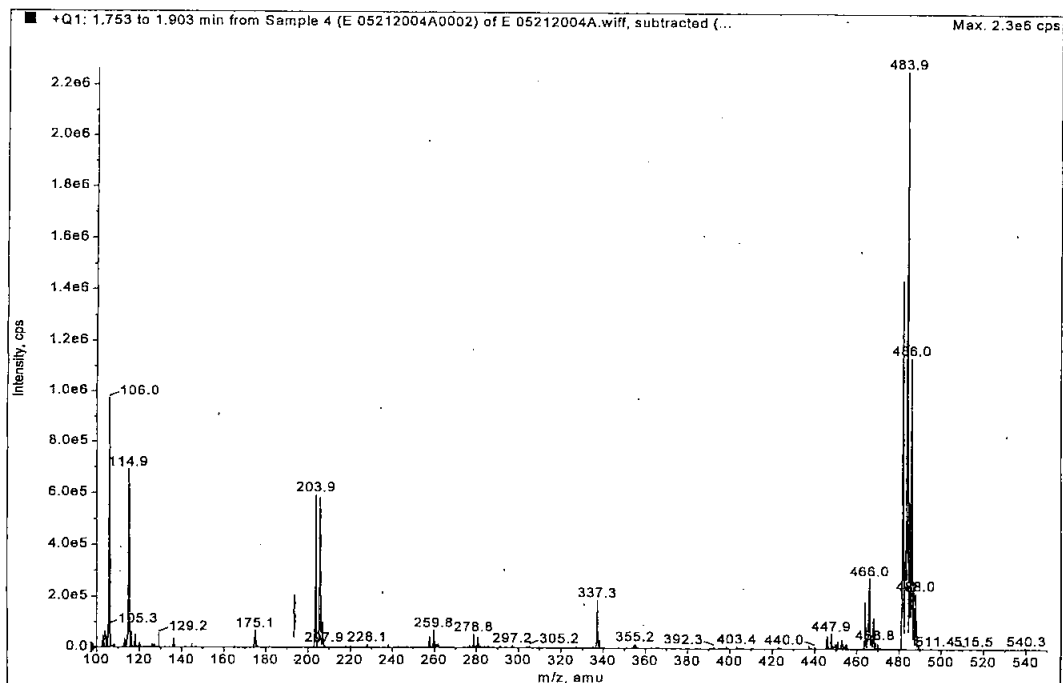


図3 クロラントラニリプロールのマススペクトル

m/z	帰属
482.0、483.9、486.0	(M+H) ⁺
464.0、466.0、467.9	[(M+H)-H ₂ O] ⁺

試験機関：

試験年：

使用機器： 質量分析計 PE Sciex API 3000 LC/MS/MS システム (Applied Biosystems 社製)

イオン化法： 加熱ネブライザー

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

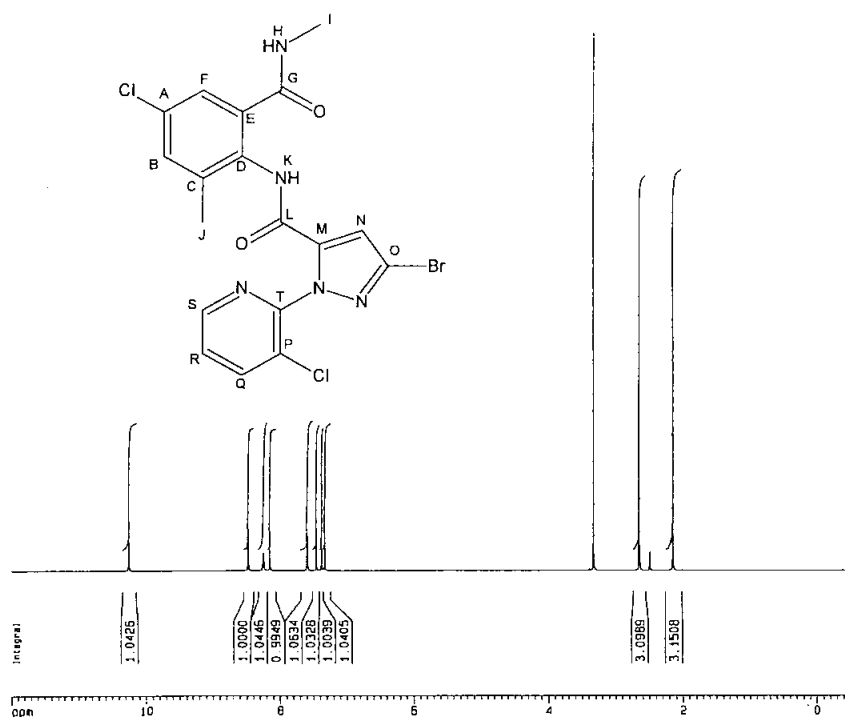


図 4-1 クロラントラニプロールの $^1\text{H-NMR}$ スペクトル

標識位置	^1H シフト(ppm)
B	7.45
F	7.33
H	8.25
I	2.65
J	2.14
K	10.25
N	7.37
Q	8.16
R	7.59
S	8.48

試験機関：

試験年：

使用機器： NMR 分光計 AVANCE DRX500 (Bruker 社製)

測定溶媒： DMSO-d6

測定温度： 室温

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

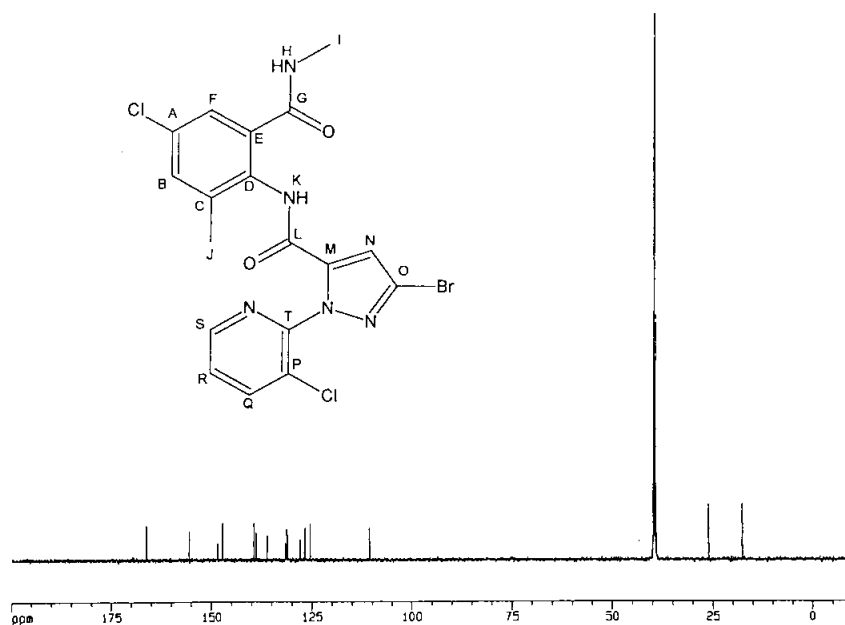


図 4-2 クロラントラニプロールの ^{13}C -NMR スペクトル

標識位置	^{13}C シフト(ppm)
A	130.92
B	131.16
C	138.78
D	131.51
E	135.99
F	125.31
G	166.13
I	26.08
J	17.65
L	155.52
M	139.34
N	110.63
O	126.80
P	127.82
Q	139.23
R	126.59
S	147.09
T	148.38

試験機関：

試験年：

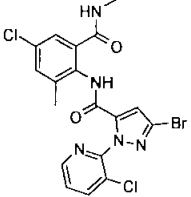
使用機器： NMR 分光計 AVANCE DRX500 (Bruker 社製)

測定溶媒： DMSO-d6

測定温度： 室温

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

2. 原体の成分組成

区分	名称		構造式	分子式	分子量	含有量 (%)	
	一般名 [略称]	化学名				規格値	通常値
有効成分	クロラントラニリ プロール DPX-E2Y45	3-プロモ-N-[4-クロロ- 2-メチル-6-(メチル カルバモイル)フェニル]-1- (3-クロロピリジン-2- イル)-1H-ピラゾール- 5-カルボキサミド		$C_{18}H_{14}BrCl_2N_5O_2$	483.15		
原体混在物							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

原体の成分組成（続き）

区分	名称		構造式	分子式	分子量	含有量 (%)	
	一般名 [略称]	化学名				規格値	通常値
原体混在物							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

原体の成分組成（続き）

区分	名称		構造式	分子式	分子量	含有量 (%)	
	一般名 [略称]	化学名				規格値	通常値
原体 混在物							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

原体の成分組成（続き）

区分	名称		構造式	分子式	分子量	含有量 (%)	
	一般名 [略称]	化学名				規格値	通常値
原体混在物							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

3. 製剤の成分組成

1) 5%フロアブル剤

クロラントラニリプロール	5.0%
水、界面活性剤等	95.0%

2) 10%フロアブル剤

クロラントラニリプロール	10.0%
水、界面活性剤等	90.0%

3) 1%粒剤

クロラントラニリプロール	1.0%
鉍物質微粉等	99.0%

4) 0.5%粒剤

クロラントラニリプロール	0.5%
鉍物質細粒等	99.5%

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

Ⅲ. 生物活性

1. 活性の範囲

以下のチョウ目、ハエ目、コウチュウ目、カメムシ目及びハチ目害虫に対して殺虫活性が認められた。

- チョウ目：

コナガ、アオムシ、ウワバ類、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、アワヨトウ、オオタバコガ、ネキリムシ類、ハイマダラノメイガ、シロオビノメイガ、ウリノメイガ、マメシクイガ、ウコンノメイガ、ナガイモコガ、ナカジロシタバ、アワノメイガ、チャノホソガ、ハマキムシ類、シクイムシ類、モモノゴマダラノメイガ、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、ハマキムシ類、モモハモグリガ、ミカンハモグリガ、ケムシ類、ヒメボクトウ、ヨモギエダシャク、ヒロヘリアオイラガ、カキノヘタムシガ、フタモンマダラメイガ、モンキクロノメイガ、クビアカスカシバ、コスカシバ、ノコメトガリキリガ、イネヨトウ、ニカメイガ、コブノメイガ、フタオビコヤガ、イネツトムシ、ネギコガ

- ハエ目：

ハモグリバエ類、オウトウショウジョウバエ、イネヒメハモグリバエ

- コウチュウ目：

イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ

- カメムシ目：

コナジラミ類、ツマグロヨコバイ、ヒメフタテンヨコバイ

- ハチ目：

カブラハバチ

2. 作用機作

本剤の作用機作は、昆虫の筋肉細胞内のカルシウムチャンネル（リアノジン受容体）に作用してカルシウムイオンを放出させ、筋収縮を起こすものと考えられている。その結果、昆虫は筋収縮を起こし、速やかに活動停止し、死に至る。しかしながら、本剤は哺乳類や鳥類、魚類などに対しては影響はほとんどない。

3. 作用特性と防除上の利点等

- 1) 既存の殺虫剤（有機リン系、カーバメイト系、ピレスロイド系、ベンゾイルウレア系、ベンゾイルヒドラジド系、クロロニコチル系等）と異なる構造をもつ新規殺虫剤である。
- 2) チョウ目、ハエ目に高い殺虫効果を示す。特に幼虫に対する効果が高い。一部のコウチュウ目やカメムシ目、シロアリ目にも活性を示すが、アザミウマ目、バッタ目およびダニ類に対しては活性が無いか極めて低い。
- 3) 特に、チョウ目害虫に対して、速効的に作用し、作物の食害を抑制する。
- 4) 本剤は作物の根からの吸収移行性があり、土壌処理（灌注処理および株元処理）が可能である。
- 5) 比較的長い残効性を有する。
- 6) 作物への薬害がない。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

- 7) 哺乳類のみならず鳥類や魚介類（ミジンコを除く）に影響が少なく、また、ミツバチや天敵昆虫類等の有用昆虫（蚕を除く）にも影響が少ないので施設内でも安心して使用できる。

以上の特性から、本剤はチョウ目及びハエ目害虫に対して、有効であり、農業生産の安定と省力化に有用な資材である。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

IV. 適用及び使用上の注意

1. 適用病害虫の範囲及び使用方法

1) 種類：クロラントラニリプロール水和剤（5%）

名称：プレバソンフロアブル5

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニプロール を含む農薬の 総使用回数	
キャベツ	コガ アオムシ ヨウムシ ハモンヨウ ハマダラメカ ネリムシ類 カブラバチ	100倍	セル成型育苗ト レイ1箱または ペーパーポット 1冊(約 30×60cm、使 用土壌約1.5 ～4L)当り 0.5L	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は3回以内)	
	コガ アオムシ ハモンヨウ ハマダラメカ ウバ類	500倍	苗地床 1m ² 当り2L					
	コガ アオムシ ヨウムシ ハモンヨウ ハマダラメカ ウバ類 オタバコガ	2000倍	100～300L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布		
はくさい	コガ アオムシ ヨウムシ ハマダラメカ カブラバチ	100倍	セル成型育苗ト レイ1箱または ペーパーポット 1冊(約 30×60cm、使 用土壌約1.5 ～4L)当り 0.5L	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は3回以内)	
	コガ アオムシ ヨウムシ ハモンヨウ ハマダラメカ カブラバチ	2000倍	100～300L/10a					収穫前日 まで
	かぶ							3回以内
	非結球あぶらな 科葉菜類（タア サイを除く）	コガ				2回以内		2回以内
タアサイ	オタバコガ		セル成型育苗ト レイ1箱または ペーパーポット 1冊(約 30×60cm、使 用土壌約1.5 ～4L)当り 0.5L	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	3回以内 (灌注は1回以内、 散布は2回以内)	
あすっこ	アオムシ	100倍					1回	1回

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

(つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クワントリアポール を含む農薬の 総使用回数
アマランサス (茎葉)	シホバノメイガ	2000倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
なばな	アオシ ハモンヨウ						4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)
だいこん	コガ アオシ ヨウシ	2000倍	100～300L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
はつか だいこん	ハマダラメカ カブラバチ ハモグリハエ類				1回		1回
カリフラワー	コガ アオシ ハモンヨウ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット 1冊(約 30×60cm、使用 土壌約1.5 ～4L)当り 0.5L	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)
ブロッコリー							コガ アオシ ハモンヨウ ハマダラメカ
はなっこりー	アオシ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット 1冊(約 30×60cm、使用 土壌約1.5 ～4L)当り 0.5L	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	3回以内 (灌注は1回以内、 散布は2回以内)
レタス	ヨウシ ハモンヨウ オタバコカ	2000倍	100～300L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は3回以内)
	ハモグリハエ類	1000～ 2000倍			3回以内		
非結球レタス	ヨウシ ハモンヨウ オタバコカ ハモグリハエ類 ネリムシ類 ヒメタテノコバエ	100倍	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット 1冊(約 30×60cm、使用 土壌約1.5 ～4L)当り 0.5L	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)
	ヨウシ ハモンヨウ オタバコカ ハモグリハエ類	2000倍	100～300L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

(つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クワントリアポール を含む農薬の 総使用回数
トマト	ハダカバエ類	1000～ 2000倍	100～300L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は3回以内)
	材バコガ	2000倍					
ミニトマト	ハダカバエ類 コナジラミ類	100倍	1株当り25mL	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	
		200倍	1株当り50mL				
	ハダカバエ類 材バコガ	100倍	1株当り25mL	収穫前日 まで	3回以内	散布	
		200倍	1株当り50mL				
なす	ハモンヨトウ ハダカバエ類 ネキリムシ類	100倍	1株当り25mL	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	3回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は2回以内)
	ハダカバエ類	200倍	1株当り50mL				
		ハモンヨトウ 材バコガ	1000～ 2000倍	100～300L/10a	収穫前日 まで	2回以内	
2000倍	3回以内						
とうがらし類	ハモンヨトウ 材バコガ	1000～ 2000倍	100～300L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	3回以内
ピーマン		1000～ 2000倍			2回以内		3回以内
	きゅうり	ハダカバエ類	100倍	1株当り25mL	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注
200倍			1株当り50mL				
ウリメカイ		1000～ 2000倍	100～300L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	
		2000倍					2回以内
ズッキーニ	ハダカバエ類	1000倍	100～300L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
メロン すいか	材バコガ ハダカバエ類	2000倍					
とうがん	ハモンヨトウ		2000倍	100～300L/10a	収穫7日前 まで	1回	散布
いちご							
パセリ	ヨウムシ	2000倍	100～300L/10a	収穫3日前 まで	3回以内	散布	1回
せり科葉菜類(パ セリを除く)							
らっきょう	ハダカバエ類	100倍	セル成型育苗トレ イ箱または ペーパーポット 1冊(約 30×60cm、使 用土壌約1.5 ～4L)当り 0.5L	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)
ねぎ	シロイロヨトウ ネキリムシ ハダカバエ類						
	ねぎ	ハダカバエ類	100倍	セル成型育苗トレ イ箱または ペーパーポット 1冊(約 30×60cm、使 用土壌約1.5 ～4L)当り 0.5L	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

(つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クワントリアクトール を含む農薬の 総使用回数			
いんげんまめ	ハモンヨトウ	4000倍	100~300L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内			
えだまめ	オタバコガ ハモンヨトウ マメシクシ ウコンメダカ			収穫3日前 まで	3回以内		3回以内			
だいず	ハモンヨトウ マメシクシ ウコンメダカ	16~32 倍	0.8L/10a	収穫7日前 まで	2回以内		無人航空 機による 散布	2回以内		
未成熟 そらまめ	ハモグリバエ類	1000~ 2000倍	100~300L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内			
さやいんげん 実えんどう さやえんどう	ハモンヨトウ ハモグリバエ類	2000倍								
やまのいも	ハモンヨトウ カゲイモガ	2000倍								
かんしょ	ハモンヨトウ カゲロシガ	2000~ 4000倍 4000倍								
さといも アスパラガス ほうれんそう モロヘイヤ バジル しそ	ハモンヨトウ	2000倍	100~300L/10a	2回以内	2回以内	散布	2回以内			
えごま(葉) ふき							3回以内	3回以内		
クレソン (土耕栽培)	コガ			3回以内	3回以内					
ごま	オタバコガ			2回以内	2回以内					
とうもろこし	アヲメダカ オタバコガ			3回以内	3回以内		3回以内	3回以内		
オクラ	オタバコガ ハモンヨトウ									
しょうが エンサイ つるむらさき	ハモンヨトウ								2回以内	2回以内
茎ブロッコ リー				3回以内	3回以内					
たばこ	ヨウムシ			2000倍	セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット 1冊(約 30×60cm、使用 土壌約1.5 ~4L)当り 0.5L		育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)
たばこ	ヨウムシ			2000倍	100~180L/10a		収穫10日前 まで	2回以内	散布	2回以内

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

2) 種類：クロラントラニリプロール水和剤（10%）

名称：サムコルフロアブル10

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロラントラニリプロール を含む農薬の 総使用回数
りんご	シクイムシ類 ハマキムシ類 ケムシ類 キンモクザガ ギンモンハダガ ヒメダマクサ	2500～ 5000倍	200～ 700L/10a	収穫 前日まで	3回以内	散布	3回以内
	ヨモギエダシヤク オオタバコガ	5000倍					
なし	ケムシ類 シクイムシ類	2500～ 5000倍					
	ハマキムシ類 ヒメダマクサ	5000倍					
かき	ハマキムシ類 ケムシ類 ヒロリアオイカガ カキハダムシガ ハスモンヨトウ フタモンダラメカガ						
	ぶどう						
おうとう							
	おうとう	ハマキムシ類 ケムシ類					
		オオタバコガヨウジヨウバエ					
うめ	ケムシ類	2500～ 5000倍					
	ハマキムシ類	2500倍 5000倍					
	ノメダガリカガ コスサシバ	5000倍					
すもも	シクイムシ類	2500倍	収穫 3日前まで				
	ケムシ類 ハマキムシ類	2500～ 5000倍					
あんず	ハマキムシ類	2500倍					
もも	シクイムシ類 ハマキムシ類	5000倍	収穫 前日まで	2回以内	2回以内		
ネクタリン	モモダマクサ コスサシバ		収穫 3日前まで				
さとうきび	イネヨトウ		100～ 300L/10a	収穫 30日前まで	3回以内	4回以内 (粒剤は1回以内、 水和剤は3回以内)	
茶	チャノコクモンハマキ チャハマキ ヨモギエダシヤク	2000倍	200～ 400L/10a	摘採 3日前まで	1回		1回
	チャノボカガ	2000～ 4000倍					
	ハスモンヨトウ	4000倍					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

3) 種類：クロラントラニリプロール粒剤 (1.0%)

名称：フェルテラ粒剤 1

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	コブノメイガ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり50g	移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	1回

4) 種類：クロラントラニリプロール粒剤 (0.5%)

名称：プレバソン粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コガ ハマダラメイガ アムシ	セル成型育苗トレイ 1箱又はペーパー ポット1冊(約 30×60cm、使用 土壌約1.5～4L) 当たり50g	育苗期後半 ～定植当日	1回	本剤の所定量をセル 成型育苗トレイ又は ペーパーポットの上か ら均一に散布する	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は3回以内)
		1g/株	育苗期後半 ～定植時		株元散布	
はくさい ブロッコリー	コガ ハマダラメイガ アムシ	セル成型育苗トレイ 1箱又はペーパー ポット1冊(約 30×60cm、使用 土壌約1.5～4L) 当たり50g	育苗期後半 ～定植当日	1回	本剤の所定量をセル 成型育苗トレイ又は ペーパーポットの上か ら均一に散布する	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は3回以内)
		1g/株	育苗期後半 ～定植時		株元散布	
レタス	ハメグリバエ	セル成型育苗トレイ 1箱又はペーパー ポット1冊(約 30×60cm、使用 土壌約1.5～4L) 当たり50g	育苗期後半 ～定植当日	1回	本剤の所定量をセル 成型育苗トレイ又は ペーパーポットの上か ら均一に散布する	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 散布は3回以内)
トマト	ネキリムシ類	1g/株	育苗期後半 ～定植時		株元散布	
きゅうり	ハメグリバエ類					
なす	ネキリムシ類 ハメグリバエ類	4～6kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和	4回以内 (粒剤は1回 以内、水和剤は 3回以内)
さとうきび	メチュウ類		生育期 但し最終倍 土まで		株元散布	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

2. 使用上の注意事項

1) 種類：クロラントラニリプロール水和剤（5%）

名称：プレバソフロアブル5

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (3) 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
- (4) 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節すること。
- (5) 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
 - 1) 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - 2) 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - 3) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- (6) 過度の連用をさげ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用すること。
- (7) つまみ菜、間引き菜には使用しないこと。
- (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (9) 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理すること。洗浄水はタンクに入れること。
- (10) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (11) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

2) 種類：クロラントラニリプロール水和剤（10%）

名称：サムコルフロアブル10

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (3) 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
- (4) 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節すること。
- (5) 過度の連用をさげ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用すること。
- (6) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (7) 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理すること。洗浄水はタンクに入れること。
- (8) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

3) 種類：クロラントラニリプロール粒剤 (1.0%)

名称：フェルテラ粒剤1

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 育苗箱の上から均一に散布し、軽く灌水してから移植すること。
- (3) 空袋は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (4) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

4) 種類：クロラントラニリプロール粒剤 (0.5%)

名称：プレバソン粒剤

- (1) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (2) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

3. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

1) 種類：クロラントラニリプロール水和剤 (5%)

名称：プレバソンフロアブル5

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

2) 種類：クロラントラニリプロール水和剤 (10%)

名称：サムコルフロアブル10

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

3) 種類：クロラントラニリプロール粒剤 (1.0%)

名称：フェルテラ粒剤1

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

響を与えないよう適切に処理すること。

4) 種類：クロラントラニリプロール粒剤（0.5%）

名称：プレバゾン粒剤

- (1) 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

V. 残留性及び環境中予測濃度算定関係

1. 作物残留

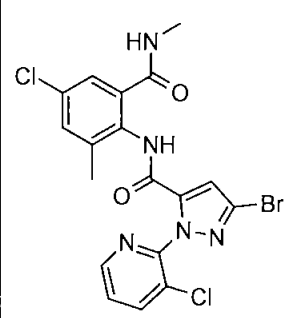
1) 分析法の原理と操作概要

試料（穀類、豆類、茶は水で膨潤）を含水アセトニトリルで抽出し、多孔性ケイソウ土カラム、陰イオン交換ミニカラム及び/またはポリマー系ミニカラムで精製し、高速液体クロマトグラフィー質量分析計 (LC/MS) あるいは液体クロマトグラフ-タンデム型質量分析計 (LC-MS/MS) を用いて定量する。

あるいは試料からアセトンで抽出し、酢酸エチル転溶後、フロリジルミニカラム、ポリマー系ミニカラム、グラファイトカーボン系ミニカラム、ODS カラムで精製し、高速液体クロマトグラフィー (UV 検出器付き) を用いて定量する。

あるいはアセトン抽出液を多孔性ケイソウ土カラム、フロリジルミニカラム、シリカゲルミニカラム及びポリマー系ミニカラムで精製し、高速液体クロマトグラフィー (UV 検出器付き) を用いて定量する。

2) 分析対象化合物

名称	化学名、分子式(分子量)	構造式	代謝経路図 中での記号
クロラントラニ リプロール[P]	3-ブromo-N-[4-クロロ-2-メチル -6-(メチルカルバモイル)フェニ ル]-1-(3-クロロピリジン-2-イ ル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミ ド C ₁₈ H ₁₄ BrCl ₂ N ₅ O ₂ (483.15)		P

3) 残留試験結果

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
水稲 [玄米]	1%粒剤 50g/箱 育苗箱処理	岩手植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	137	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		大分植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	119	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
水稲 [稲わら]	1%粒剤 50g/箱 育苗箱処理	岩手植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	137	0.01	0.01	0.01	0.01
		大分植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	119	0.02	0.02	0.01	0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
未成熟とう もろこし (露地) [子実]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	福井植	0	-	/	/	<0.01	<0.01
			3	1			<0.01	<0.01
			3	3			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01
			3	14			<0.01	<0.01
		長野植 (松代)	0	-			<0.01	<0.01
			3	1			<0.01	<0.01
			3	3			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01
			3	14			<0.01	<0.01
とうもろこし (露地) [乾燥子実]	5%フロアブル剤 2000倍 191-200L/10a 散布	日植防 (茨城)	0	-	/	/	<0.01	<0.01
			3	1			<0.01	<0.01
			3	3			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01
			3	14			<0.01	<0.01
		日植防 (千葉)	0	-			<0.01	<0.01
			3	1			<0.01	<0.01
			3	3			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01
			3	14			<0.01	<0.01
だいず (露地) [乾燥子実]	5%フロアブル剤 4000倍 200L/10a 散布	北海道植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	0.03	0.03	0.02	0.02
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	5%フロアブル剤 4000倍 200L/10a 散布	大分植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
だいず (露地) [乾燥子実]	5%フロアブル剤 16倍 0.8L/10a 無人航空機に よる散布	宮城植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	7	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	5%フロアブル剤 16倍 0.8L/10a 無人航空機に よる散布	鹿児島 (環境)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	7	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			2	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
さといも (露地) [塊茎]	5%フロアブル剤 2000倍 166L/10a 散布	愛知植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	宮崎畑園	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
—								
かんしょ (露地) [塊根]	5%フロアブル剤 2000倍 180L/10a 散布	日植防 (茨城)	0	-	<0.01	<0.01	/	
			3	1	<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01		
	5%フロアブル剤 2000倍 175L/10a 散布	鹿児島 (環境)	0	-	<0.01	<0.01		
			3	1	<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01		
—								
やまのいも (露地) [塊茎]	5%フロアブル剤 2000倍 195L/10a 散布	日植防 (茨城)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	石川植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
さとうきび (露地) [茎葉]	10%フロアブル剤 5000 倍 222L/10a 散布	日植防 (宮崎)	0	-	<0.01	<0.01	—	
			3	30	<0.01	<0.01		
			3	45	<0.01	<0.01		
			3	60	<0.01	<0.01		
	10%フロアブル剤 5000 倍 243L/10a 散布	鹿児島植	0	-	<0.01	<0.01		
			3	30	<0.01	<0.01		
			3	45	<0.01	<0.01		
			3	60	<0.01	<0.01		
さとうきび (露地) [茎]	0.5%粒剤 6kg/10a 及び 10%フロアブル剤 5000 倍 278L/10a	日植防 (高知)	0	-	<0.01	<0.01	—	
			1+3	30	<0.01	<0.01		
			1+3	45	<0.01	<0.01		
			1+3	60	<0.01	<0.01		
	0.5%粒剤 6kg/10a 及び 10%フロアブル剤 5000 倍 200L/10a	日植防 (宮崎)	0	-	<0.01	<0.01		
			1+3	30	<0.01	<0.01		
			1+3	45	<0.01	<0.01		
			1+3	60	<0.01	<0.01		
だいこん (露地) [葉部]	5%フロアブル剤 2000 倍 200L/10a 散布	石川植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	1.80	1.78	1.57	1.54
			3	3	0.67	0.66	0.63	0.62
			3	7	0.28	0.28	0.68	0.68
			3	15	0.10	0.10	0.14	0.14
		福井植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	1.30	1.29	0.71	0.70
			3	3	1.13	1.12	0.73	0.70
			3	7	0.38	0.38	0.37	0.36
			3	14	0.57	0.56	0.35	0.35
だいこん (露地) [根部]	5%フロアブル剤 2000 倍 200L/10a 散布	石川植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	15	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		福井植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)						
					公的分析機関		社内分析機関				
					クロラントラニリプロール						
					最大値	平均値	最大値	平均値			
はつかだい こん (施設) [茎部]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	愛知農試 (豊川)	0	-	/	/	<0.01	<0.01			
			1	1			5.00	5.00			
			1	3			6.75	6.62			
			1	7			2.65	2.58			
		愛知農試 (豊橋)	0	-			<0.01	<0.01			
			1	1			6.50	6.50			
			1	3			3.75	3.75			
			1	7			2.65	2.62			
はつかだい こん (施設) [根部]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	愛知農試 (豊川)	0	-	<0.01	<0.01					
			1	1	<0.01	<0.01					
			1	3	<0.01	<0.01					
			1	7	<0.01	<0.01					
		愛知農試 (豊橋)	0	-	<0.01	<0.01					
			1	1	<0.01	<0.01					
			1	3	<0.01	<0.01					
			1	7	<0.01	<0.01					
かぶ (露地) [葉部]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	日植防研 (牛久)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	1	2.77	2.74	3.34	3.21			
			3	3	2.48	2.47	2.54	2.54			
			3	7	2.00	1.98	2.22	2.22			
		岐阜植	3	14	1.66	1.64	1.70	1.70			
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			3	1	3.38	3.36	3.25	3.20			
			3	3	2.69	2.68	2.61	2.54			
		岐阜植	3	7	1.57	1.56	1.63	1.57			
			3	14	1.24	1.22	1.07	1.05			
			かぶ (露地) [根部]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	日植防研 (牛久)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
3	3	0.01				0.01	<0.01	<0.01			
3	7	0.01				0.01	<0.01	<0.01			
岐阜植	3	14			0.02	0.02	<0.01	<0.01			
	0	-			<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	3	1			0.03	0.03	0.03	0.03			
	3	3			0.02	0.02	<0.01	<0.01			
岐阜植	3	7	0.02	0.02	<0.01	<0.01					
	3	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)						
					公的分析機関		社内分析機関				
					クロラントラニプロール						
					最大値	平均値	最大値	平均値			
クレソン (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	愛知農試 (蒲郡)	0	-	/	/	/	/			
			3	3					<0.01	<0.01	
			3	7					3.12	3.08	
			3	14					0.78	0.78	
		愛知農試 (愛西)	0	-					<0.01	<0.01	
			3	3					1.24	1.22	
			3	7					0.39	0.39	
			3	14					0.04	0.04	
キャベツ (露地) [葉球]	5%フロアブル剤 500mL /株トレイ灌注 及び 2000倍 200L/10a 散布	群馬植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			1+3	3	0.08	0.08	0.09	0.09			
			1+3	7	0.12	0.12	0.02	0.02			
			1+3	14	0.08	0.08	0.03	0.03			
		日植防研 (宮崎)	1+3	21	0.03	0.03	0.04	0.04			
			0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			1+3	3	0.12	0.12	0.03	0.03			
			1+3	7	0.07	0.07	0.03	0.03			
			1+3	14	0.05	0.05	0.02	0.02			
			1+3	21	0.02	0.02	<0.01	<0.01			
			キャベツ (露地) [葉球]	5%フロアブル剤 100倍 500mL /株トレイ灌注 及び 2000倍 250-300L/10a 散布	日植防研 (牛久)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
						1+3	1	0.03	0.03	0.04	0.04
1+3	3	0.03				0.03	0.04	0.04			
1+3	7	0.03				0.03	0.04	0.04			
日植防研 (宮崎)	1+3	14		0.01	0.01	0.03	0.03				
	0	-		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01				
	1+3	1		0.32	0.30	0.77	0.76				
	1+3	3		0.25	0.24	0.57	0.56				
日植防研 (宮崎)	1+3	7	0.15	0.14	0.27	0.26					
	1+3	14	0.08	0.08	0.23	0.23					
	キャベツ (露地) [葉球]	0.5%粒剤 1g/株 植穴処理及び 5%フロアブル剤 2000倍 231L/10a 散布	兵庫	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
				1+3	1	0.14	0.14	0.19	0.19		
1+3				3	0.32	0.32	0.31	0.30			
1+3				7	0.11	0.10	0.11	0.11			
1+3				14	0.07	0.07	0.05	0.05			
日植防研 (高知)	0.5%粒剤 1g/株 植穴処理及び 5%フロアブル剤 2000倍 281/10a 散布	日植防研 (高知)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			1+3	1	0.36	0.36	0.29	0.28			
			1+3	3	0.16	0.16	0.33	0.32			
			1+3	7	0.15	0.15	0.12	0.12			
			1+3	14	0.04	0.04	0.05	0.05			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
はくさい (露地) [茎葉]	5%フロアブル剤 100倍 500mL ペルトレイ灌注 及び	日植防研 (牛久)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	3	0.18	0.18	0.26	0.26
			1+3	7	0.06	0.06	0.03	0.03
			1+3	14	0.05	0.05	0.03	0.02
はくさい (露地) [茎葉]	2000倍 200L/10a 散布	群馬植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	3	0.15	0.15	0.46	0.46
			1+3	7	0.01	0.01	0.08	0.08
			1+3	14	0.08	0.08	<0.01	<0.01
はくさい (露地) [茎葉]	5%フロアブル剤 100倍 500mL ペルトレイ灌注 及び	長野植 (南信)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	1	0.34	0.33	0.37	0.36
			1+3	3	0.14	0.14	0.31	0.30
			1+3	7	0.25	0.24	0.24	0.24
	2000倍 300L/10a 散布	福井植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	1	0.05	0.05	0.07	0.06
			1+3	3	0.08	0.08	0.10	0.10
			1+3	7	0.05	0.05	0.01	0.01
1+3	14	0.04	0.04	0.03	0.02			
はくさい (露地) [茎葉]	0.5%粒剤 1g/株 植穴処理及び 5%フロアブル剤 2000倍 278-292L/10a 散布	日植防研 (茨城)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	1	0.18	0.18	0.29	0.29
			1+3	3	0.15	0.15	0.19	0.19
			1+3	7	0.07	0.07	0.12	0.12
	250L/10a 散布	日植防研 (成東)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	1	1.39	1.38	2.00	2.00
			1+3	3	0.84	0.84	1.15	1.15
			1+3	7	0.53	0.52	0.58	0.57
1+3	14	0.32	0.32	0.39	0.38			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
こまつな (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 2000倍 150L/10a 散布	福島植 (郡山)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	3.18	3.18	2.50	2.48
			2	3	3.29	3.16	2.95	2.92
			2	7	1.75	1.67	1.66	1.66
			2	14	0.67	0.65	0.67	0.66
	2	21	0.29	0.28	0.27	0.27		
	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	東京	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	1.30	1.29	1.14	1.14
			2	3	0.91	0.88	0.79	0.78
			2	7	0.45	0.44	0.44	0.44
2			14	0.05	0.05	0.10	0.10	
2	21	0.02	0.02	0.03	0.03			
—								
みずな (施設) (茎葉)	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	日植防研 (茨城)	0	—	/	/	<0.01	<0.01
			2	1			5.86	5.76
			2	3			4.99	4.92
			2	7			4.43	4.42
			2	14			1.49	1.48
		2	21	0.58			0.58	
		三重植	0	—			<0.01	<0.01
			2	1			1.04	1.02
			2	3			0.99	0.99
			2	7			0.75	0.74
2	14		0.27	0.26				
2	21	0.16	0.16					
チンゲン サイ (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 2000倍 180L/10a 散布	埼玉	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.39	0.39	0.56	0.54
			2	3	0.45	0.44	0.45	0.45
			2	7	0.27	0.26	0.26	0.26
			2	14	0.13	0.13	0.11	0.10
	2	21	0.08	0.08	0.09	0.08		
	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	三重植	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	1.33	1.32	1.85	1.80
			2	3	1.15	1.14	1.48	1.48
			2	7	0.67	0.66	0.74	0.72
2			14	0.23	0.22	0.41	0.41	
2	21	0.04	0.04	0.04	0.04			
ブロッコ リー (露地) [花蕾]	5%フロアブル剤 100倍 500mL セルトレイ灌注 及び 2000倍 200L/10a 散布	日植防研 (牛久)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	3	0.21	0.20	0.19	0.18
			1+3	7	0.10	0.10	0.08	0.08
			1+3	14	0.03	0.03	0.02	0.02
			1+3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
ブロッコリー (露地) [花蕾]	5%アアブル剤 100倍 500mL ポット内灌注 及び 2000倍 70~150L/10a 散布	日植防研 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	3	0.10	0.10	0.10	0.10
			1+3	7	0.04	0.04	0.03	0.03
			1+3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ブロッコリー (露地) [花蕾]	5%アアブル剤 100倍 500mL ポット内灌注 及び 1000倍 300L/10a 散布	群馬植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	1	0.66	0.65	0.56	0.54
			1+3	3	0.66	0.65	0.44	0.44
			1+3	7	0.63	0.61	0.55	0.54
			1+3	14	0.55	0.55	0.57	0.56
	5%アアブル剤 100倍 500mL ポット内灌注 及び 1000倍 250L/10a 散布	静岡植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	1	0.37	0.37	0.31	0.30
			1+3	3	0.16	0.16	0.18	0.18
			1+3	7	0.15	0.15	0.20	0.20
			1+3	10	0.07	0.07	0.05	0.05
ブロッコリー (露地) [花蕾]	0.5%粒剤 1g/株植穴処理 5%アアブル剤 2000倍 273L/10a 散布	日植防 (茨城)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	1	0.20	0.20	0.30	0.30
			1+3	3	0.13	0.13	0.19	0.19
			1+3	7	0.07	0.06	0.07	0.07
			1+3	14	0.01	0.01	0.01	0.01
	0.5%粒剤 1g/株植穴処理 5%アアブル剤 2000倍 160-250L/10a 散布	日植防 (千葉)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	1	0.22	0.21	0.30	0.30
			1+3	3	0.14	0.14	0.15	0.15
			1+3	7	0.04	0.04	0.05	0.05
			1+3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
カリフラワー (露地) [花蕾]	5%アアブル剤 2000倍 300L/10a 散布	長野植 (南信)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.17	0.17	0.20	0.19
			3	3	0.26	0.26	0.23	0.23
			3	7	0.16	0.16	0.09	0.08
			3	14	0.03	0.02	0.02	0.02
	5%アアブル剤 2000倍 210L/10a 散布	愛知植	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					クロラントラニリプロール					
					最大値	平均値	最大値	平均値		
カリフラ ワー (露地) [花蕾]	5%フロアブル剤 100倍 500mL セルトレイ灌注 及び 2000倍 267L/10a 散布	日植防 (茨城)	0	-	/	/	/	/		
			1+3	1					<0.01	<0.01
			1+3	3					0.22	0.22
			1+3	7					0.07	0.07
	1+3	14	0.08	0.08						
	5%フロアブル剤 100倍 500mL セルトレイ灌注 及び 2000倍 250,271L/10a 散布	日植防 (千葉)	0	-					<0.01	<0.01
			1+3	1					0.18	0.18
			1+3	3					0.16	0.16
1+3			7	0.11	0.11					
1+3	14	<0.01	<0.01							
はなっこり ー (露地) [花蕾 及び茎]	5%フロアブル剤 100倍 500mL セルトレイ灌注 及び 2000倍 300L/10a 散布	山口県 (山口市)	0	-	<0.02	<0.02				
			1+2	1	0.54	0.54				
			1+2	3	0.21	0.20				
			1+2	7	0.15	0.15				
			1+2	14	0.04	0.04				
	山口県 (阿武町)	0	-	<0.02	<0.02					
		1+2	1	0.53	0.52					
		1+2	3	0.45	0.44					
		1+2	7	0.20	0.20					
		1+2	14	0.03	0.03					
タアサイ (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 100倍 500mL セルトレイ灌注 及び 2000倍 200L/10a 散布	千葉 農総研 (木更津)	0	-	<0.05	<0.05				
			1+2	1	2.73	2.73				
			1+2	3	2.45	2.37				
			1+2	7	1.59	1.54				
			1+2	14	1.08	1.06				
	千葉 農総研 (袖ヶ浦)	0	-	<0.05	<0.05					
		1+2	1	2.72	2.70					
		1+2	3	2.04	1.96					
		1+2	7	2.34	2.32					
		1+2	14	1.38	1.36					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
レタス (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 100倍 500mL セルトレイ灌注 及び 1000倍 223L/10a 散布	日植防研 (茨城)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	3	2.29	2.28	2.26	2.18
			1+3	7	3.08	3.00	2.05	2.02
			1+3	14	1.00	0.96	0.98	0.94
		1+3	21	0.61	0.59	0.63	0.62	
		日植防研 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	3	0.60	0.60	0.32	0.32
			1+3	7	0.39	0.38	0.17	0.16
	1+3		14	0.06	0.06	0.06	0.06	
	1+3	21	0.01	0.01	<0.01	<0.01		
レタス (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 100倍 500mL セルトレイ灌注 及び 1000倍 223L/10a 散布	日植防研 (茨城)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	1	1.26	1.22	1.27	1.26
			1+3	3	0.88	0.87	0.91	0.90
			1+3	7	0.68	0.67	1.21	1.20
	1+3	14	0.61	0.60	0.63	0.62		
	5%フロアブル剤 100倍 500mL セルトレイ灌注 及び 1000倍 250-300L/10a 散布	和歌山植	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	1	0.60	0.58	0.80	0.80
			1+3	3	0.39	0.38	0.54	0.54
			1+3	7	0.45	0.44	0.38	0.38
			1+3	14	0.03	0.03	0.06	0.06
レタス (施設) [茎葉]			0.5%粒剤 1g/株植穴処理 5%フロアブル剤 1000倍 250-288L/10a 散布	日植防 (茨城)	0	—	<0.01	<0.01
	1+3	1			1.83	1.80	1.49	1.48
	1+3	3			1.94	1.94	1.91	1.88
	1+3	7			0.86	0.86	1.80	1.78
	1+3	14	0.83	0.82	1.48	1.48		
	0.5%粒剤 1g/株植穴処理 5%フロアブル剤 1000倍 278-279L/10a 散布	日植防 (高知)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	1	1.30	1.28	1.17	1.16
			1+3	3	1.05	1.02	1.09	1.08
1+3			7	1.17	1.16	1.26	1.24	
1+3	14	0.49	0.48	0.48	0.48			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
サラダ菜 (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 2000 倍 200L/10a 散布	岐阜植	0	-	—		<0.01	<0.01
			2	1			1.99	1.98
			2	3			2.42	2.40
			2	7			2.26	2.22
			2	14			0.62	0.61
			2	21			0.08	0.08
		三重植	0	-			<0.01	<0.01
			2	1			2.31	2.31
			2	3			1.63	1.63
			2	7			1.49	1.48
			2	14			0.70	0.70
			2	21			0.48	0.48
サラダ菜 (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 100 倍 500mL セルトレイ灌注 及び 1000 倍 200L/10a 散布	福井植	0	-	<0.01	<0.01		
			1+3	1	5.91	5.82		
			1+3	3	1.47	1.45		
			1+3	7	0.76	0.75		
		1+3	14	0.12	0.12			
		三重植	0	-	<0.01	<0.01		
			1+3	1	8.64	8.63		
			1+3	3	6.74	6.65		
			1+3	7	4.76	4.63		
			1+3	14	0.64	0.63		
リーフ レタス (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 2000 倍 200L/10a 散布	三重植	0	0	<0.01	<0.01		
			2	1	1.84	1.83		
			2	3	1.42	1.42		
			2	7	1.10	1.10		
			2	14	0.25	0.24		
			2	21	0.07	0.07		
			徳島植	0	0	<0.01	<0.01	
		2		1	6.83	6.70		
		2		3	5.76	5.70		
		2		7	3.45	3.42		
		2		14	0.76	0.76		
		2		21	0.14	0.14		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)						
					公的分析機関		社内分析機関				
					クロラントラニプロール						
					最大値	平均値	最大値	平均値			
リーフ レタス (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 100倍 500mL セルトレイ灌注 及び 1000倍 150L/10a 散布	福島植	0	-	/	/	/	/	/		
			1+3	1						<0.01	<0.01
			1+3	3						7.20	6.98
			1+3	7						6.35	6.34
			1+3	14						2.37	2.34
	5%フロアブル剤 100倍 500mL セルトレイ灌注 及び 1000倍 193.3L/10a 散布	三重植	0	-						<0.01	<0.01
			1+3	1						8.59	8.46
			1+3	3						5.88	5.81
			1+3	7						3.34	3.27
			1+3	14						0.44	0.44
ふき (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 2000倍 300L/10a 散布	愛知農試 (知多)	0	-	/	/	/	/	/		
			3	3						<0.02	<0.02
			3	7						0.19	0.19
			3	14						0.17	0.16
			3	14						0.07	0.06
		愛知農試 (東海)	0	-						<0.02	<0.02
			3	3						0.29	0.29
			3	7						0.14	0.14
			3	14						0.08	0.08
			ねぎ (露地) [茎葉]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布						鳥取園 弓浜	0
3	3	<0.01			<0.01						
3	7	0.21			0.21						
3	14	0.17			0.17						
3	21	0.13			0.13						
徳島農	0	-			<0.01	<0.01					
	3	3			0.11	0.11					
	3	7			0.13	0.13					
	3	14			0.10	0.10					
	3	21			0.06	0.06					
徳島農	0	-	<0.01	<0.01							
	3	3	0.06	0.05							
	3	7	0.67	0.66							
	3	14	0.52	0.51							
	3	21	0.42	0.42							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					クロラントラニプロール					
					最大値	平均値	最大値	平均値		
ねぎ (露地) [茎葉]	5%アブゾル剤 100倍 500mL /ポット灌注 及び 2000倍 192L/10a 散布	日植防 (茨城)	0	—	/	/	/	/		
			1+3	1					<0.01	<0.01
			1+3	3					0.22	0.22
			1+3	7					0.09	0.09
	1+3	14	0.04	0.04						
	1+3	14	0.02	0.02						
	5%アブゾル剤 100倍 500mL /ポット灌注 及び 2000倍 180L/10a 散布	日植防 (高知)	0	-					<0.01	<0.01
			1+3	1					0.23	0.22
1+3			3	0.26	0.26					
1+3			7	0.20	0.20					
1+3	14	0.19	0.19							
アスパラ ガス (施設) [若茎]	5%アブゾル剤 2000倍 200L/10a 散布	福島植	0	—	/	/	/	/		
			3	1					<0.01	<0.01
			3	3					0.02	0.02
			3	7					<0.01	<0.01
	長野植 (南信)	0	—	<0.01					<0.01	
		3	1	0.02					0.02	
		3	3	<0.01					<0.01	
		3	7	<0.01					<0.01	
					—					
パセリ (施設) [茎葉]	5%アブゾル剤 2000倍 200L/10a 散布	香川農試	0	—	<0.05	<0.05	/			
			1	7	5.70	5.62				
			1	14	4.18	4.12				
			1	21	2.51	2.46				
パセリ (施設) [茎葉]	5%アブゾル剤 2000倍 397L/10a 散布	香川農試	0	—	<0.05	<0.05	/			
			1	7	6.34	6.10				
			1	14	3.31	3.23				
			1	21	0.18	0.17				
トマト (施設) [果実]	5%アブゾル剤 100倍 25mL /ポット灌注 及び 1000倍 200L/10a 散布	群馬植	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
			1+3	1	0.02	0.02	0.03	0.03		
			1+3	7	0.04	0.04	0.04	0.04		
			1+3	14	0.04	0.04	0.03	0.02		
	石川植	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
		1+3	1	0.20	0.19	0.14	0.14			
		1+3	7	0.12	0.12	0.10	0.10			
		1+3	14	0.08	0.08	0.09	0.09			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
ミニトマト (施設) [果実]	5%フロアブル剤 100倍 25mL /ポット灌注 及び 2000倍 250L/10a 散布	日植防研 (牛久)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	1	0.09	0.08	0.07	0.06
			1+3	3	0.13	0.12	0.08	0.08
			1+3	7	0.08	0.08	0.09	0.08
		1+3	14	0.12	0.12	0.13	0.12	
		日植防研 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+3	1	0.07	0.07	0.05	0.05
			1+3	3	0.05	0.05	0.05	0.04
1+3	7		0.05	0.05	0.04	0.04		
1+3	14	0.04	0.04	0.04	0.04			
ピーマン (施設) [果実]	5%フロアブル剤 100倍 25mL /ポット灌注 及び 1000倍 200L/10a 散布	岩手植	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+2	1	0.23	0.22	0.20	0.20
			1+2	7	0.10	0.10	0.09	0.09
1+2	14	0.03	0.02	0.02	0.02			
ピーマン (施設) [果実]	5%フロアブル剤 100倍 25mL /ポット灌注 及び 1000倍 250L/10a 散布	日植防 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+2	1	0.32	0.32	0.39	0.38
			1+2	7	0.23	0.23	0.25	0.24
1+2	14	0.14	0.14	0.12	0.12			
なす (施設) [果実]	5%フロアブル剤 100倍 25mL /ポット灌注 及び 1000倍 200L/10a 散布	群馬植	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1+2	1	0.04	0.04	0.06	0.06
			1+2	7	0.02	0.02	<0.01	<0.01
	1+2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
	日植防研 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		1+2	1	0.26	0.26	0.18	0.18	
1+2		7	0.06	0.06	0.06	0.06		
1+2	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01			
ししとう (施設) [果実]	5%フロアブル剤 100倍 25mL /ポット灌注 及び 1000倍 300L/10a 散布	和歌山 農総 センター	0	—	<0.01	<0.01	—	
			1+3	1	1.17	1.12		
			1+3	3	0.60	0.59		
			1+3	7	0.24	0.24		
			1+3	14	0.05	0.05		
	日植防 (高知)	0	—	<0.01	<0.01			
		1+3	1	2.60	2.50			
		1+3	3	1.93	1.90			
		1+3	7	0.88	0.86			
		1+3	14	0.56	0.55			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					クロラントラニリプロール				
					最大値	平均値	最大値	平均値	
甘長 とうがらし (施設) [果実]	5%フロアブル剤 100倍 25mL /ポット灌注 及び 1000倍 300L/10a 散布	岐阜植防	0	—	<0.01	<0.01	/		
			1+3	1	1.03	1.02			
			1+3	3	1.04	1.04			
			1+3	7	0.65	0.64			
			1+3	14	0.42	0.42			
	5%フロアブル剤 100倍 25mL /ポット灌注 及び 1000倍 180L/10a 散布	日植防 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01			
			1+3	1	1.26	1.26			
			1+3	3	0.98	0.96			
			1+3	7	0.59	0.58			
			1+3	14	0.13	0.13			
きゅうり (施設) [果実]	5%フロアブル剤 100倍 25mL /ポット灌注 及び 1000倍 200L/10a 散布	群馬植	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			1+3	1	0.05	0.05	0.04	0.04	
			1+3	7	0.01	0.01	0.01	0.01	
			1+3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
	5%フロアブル剤 100倍 25mL /ポット灌注 及び 1000倍 300L/10a 散布	石川植	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			1+3	1	0.07	0.07	0.06	0.06	
			1+3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			1+3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
すいか (施設) [果肉]	5%フロアブル剤 2000倍 300L/10a 散布	石川植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		熊本 (環境)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
すいか (施設) [果皮]	5%フロアブル剤 2000倍 300L/10a 散布	石川植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
			3	1	0.25	0.25	0.34	0.33	
			3	3	0.20	0.20	0.33	0.32	
			3	7	0.12	0.12	0.22	0.22	
		熊本 (環境)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.11	0.10	0.14	0.14	
			3	3	0.08	0.08	0.13	0.12	
			3	7	0.09	0.09	0.12	0.12	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
メロン (施設) [果肉]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	石川植	0	-	<0.01	<0.01	—	
			3	1	<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01		
	5%フロアブル剤 2000倍 250-251L/10a 散布	日植防 (宮崎)	0	-	<0.01	<0.01		
			3	1	<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01		
3	7	<0.01	<0.01					
3	14	<0.01	<0.01					
メロン (施設) [果皮]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	石川植	0	-	<0.01	<0.01	—	
			3	1	0.50	0.50		
			3	3	0.54	0.54		
			3	7	0.51	0.50		
			3	14	0.41	0.41		
	5%フロアブル剤 2000倍 250-251L/10a 散布	日植防 (宮崎)	0	-	<0.01	<0.01		
			3	1	0.46	0.46		
			3	3	0.49	0.48		
3	7	0.46	0.46					
3	14	0.41	0.40					
とうがん (施設) [果実]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	愛知農試 (田原)	0	-	—	—	<0.01	<0.01
			3	1			<0.01	<0.01
			3	3			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01
		愛知農試 (豊橋)	0	-			<0.01	<0.01
			3	1			<0.01	<0.01
			3	3			<0.01	<0.01
			3	7			<0.01	<0.01
ほうれん そう (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 2000倍 152.4L/10a 散布	福島植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	3.71	3.64	2.93	2.90
			3	3	3.74	3.72	4.08	4.03
			3	7	3.25	3.24	3.52	3.48
			3	14	4.14	4.10	3.94	3.88
	5%フロアブル剤 2000倍 182.65~ 182.86L/10a 散布	三重植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	4.67	4.66	3.35	3.32
			3	3	3.80	3.71	2.64	2.64
			3	7	3.56	3.54	3.04	3.00
			3	14	0.74	0.72	0.51	0.51

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
オクラ (施設) [果実]	5%フロアブル剤 2000倍 280L/10a 散布	日植防 (茨城)	0	-	<0.01	<0.01	—	
			3	1	0.15	0.15		
			3	3	0.11	0.11		
			3	7	0.06	0.06		
	3	14	0.03	0.03				
	5%フロアブル剤 2000倍 225-275L/10a 散布	日植防 (高知)	0	-	<0.01	<0.01		
			3	1	0.28	0.27		
			3	3	0.14	0.14		
3			7	0.03	0.03			
3	14	0.02	0.02					
しょうが (露地) [根茎]	5%フロアブル剤 2000倍 166L/10a 散布	日植防 (茨城)	0	-	<0.01	<0.01	—	
			3	1	<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01		
			3	7	0.01	0.01		
	3	14	<0.01	<0.01				
	5%フロアブル剤 2000倍 178-180L/10a 散布	日植防 (高知)	0	-	<0.01	<0.01		
			3	1	<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01		
3			7	<0.01	<0.01			
3	14	<0.01	<0.01					
さや えんどう (施設) [さや]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	和歌山	0	-	<0.01	<0.01	—	
			3	1	0.27	0.26		
			3	3	0.22	0.22		
	3	7	0.10	0.10				
	5%フロアブル剤 2000倍 181L/10a 散布	日植防 (高知)	0	-	<0.01	<0.01		
			3	1	0.13	0.13		
3			3	0.10	0.10			
3	7	0.08	0.08					
さや いんげん (施設) [さや]	5%フロアブル剤 2000倍 168-194L/10a 散布	日植防 (茨城)	0	-	<0.01	<0.01	—	
			3	1	0.16	0.16		
			3	3	0.11	0.10		
	3	7	0.10	0.10				
	5%フロアブル剤 2000倍 183L/10a 散布	鹿児島 (環境)	0	-	<0.01	<0.01		
			3	1	0.12	0.12		
			3	3	0.11	0.11		
			3	7	0.15	0.14		
3			7	0.13	0.13			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
えだまめ (露地) [さや]	5%7077β剤 4000倍 150-200L/10a 散布	福島植 (郡山)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	0.15	0.14	0.10	0.10
			3	7	0.11	0.11	0.09	0.09
			3	14	0.14	0.14	0.10	0.10
	3	21	0.04	0.04	0.03	0.03		
	5%7077β剤 4000倍 200L/10a 散布	徳島植	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	0.32	0.32	0.20	0.20
			3	7	0.19	0.19	0.13	0.12
3			14	0.16	0.16	0.11	0.10	
3	21	0.11	0.10	0.06	0.06			
未成熟 そらまめ (施設) [未成熟 子実]	5%7077β剤 1000倍 300L/10a 散布	鹿児島	0	—	—	—	<0.01	<0.01
			3	1			0.04	0.04
			3	3			0.04	0.04
			3	7			0.03	0.03
	3	14	0.03	0.02				
	未成熟 そらまめ (施設) [未成熟 子実]	鹿児島	0	—			<0.01	<0.01
			3	1			<0.01	<0.01
			3	3			<0.01	<0.01
3			7	<0.01	<0.01			
3	14	<0.01	<0.01					
ごま (露地) [種子]	5%7077β剤 2000倍 200L/10a 散布	茨城農試 (八千代)	0	—	—	—	<0.01	<0.01
			2	3			0.12	0.12
			2	7			0.11	0.11
			2	14			0.04	0.04
	茨城農試 (結城)	0	—	<0.01			<0.01	
		2	3	0.04			0.04	
		2	7	0.08			0.08	
		2	14	0.03			0.03	
モロヘイヤ (施設) [茎葉]	5%7077β剤 2000倍 480L/10a 散布	香川農試 (高松市)	0	-	—	—	<0.05	<0.05
			2	1			14.6	14.4
			2	3			10.9	10.4
			2	7			10.8	10.6
	2	14	5.02	4.90				
	5%7077β剤 2000倍 420L/10a 散布	香川農試 (観音寺市)	0	-			<0.05	<0.05
			2	1			8.38	8.32
			2	3			7.93	7.88
2			7	5.41	5.38			
モロヘイヤ (施設) [茎葉]	5%7077β剤 2000倍 750L/10a 散布	香川農試 (高松市)	0	-	<0.05	<0.05		
			2	1	7.44	7.26		
			2	3	6.00	5.98		
			2	7	3.79	3.60		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
えごま(葉) (施設) [葉]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	愛知農試 (当古町)	0	-	/	/	/	/
			3	1				
			3	3				
			3	7				
		愛知農試 (上長山町)	0	-				
			3	1				
			3	3				
			3	7				
りんご (露地) [果実]	10%フロアブル剤 2500倍 600L/10a 散布	青森植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	0.31	0.31	0.21	0.21
			3	7	0.31	0.30	0.14	0.14
			3	14	0.23	0.23	0.22	0.22
			3	21	0.17	0.16	0.12	0.12
	10%フロアブル剤 2500倍 500L/10a 散布	石川植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	0.10	0.10	0.09	0.09
			3	7	0.09	0.09	0.05	0.05
			3	14	0.08	0.08	0.05	0.04
			3	21	0.06	0.06	0.04	0.04
りんご (露地) [果実]	10%フロアブル剤 2500倍 500L/10a 散布	青森植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.34	0.32	0.37	0.37
			3	3	0.33	0.32	0.33	0.32
			3	7	0.31	0.31	0.36	0.34
			3	14	0.36	0.36	0.34	0.34
	10%フロアブル剤 2500倍 450L/10a 散布	日植防 (秋田)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.19	0.18	0.18	0.18
			3	3	0.18	0.18	0.16	0.16
			3	7	0.18	0.18	0.15	0.14
			3	14	0.16	0.16	0.14	0.14
なし (露地) [果実]	10%フロアブル剤 2500倍 400L/10a 散布	長野植 (須坂)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	0.13	0.12	0.16	0.16
			3	7	0.12	0.12	0.12	0.12
			3	14	0.10	0.10	0.12	0.12
			3	21	0.07	0.07	0.09	0.08
	10%フロアブル剤 2500倍 700L/10a 散布	徳島植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	0.13	0.12	0.18	0.18
			3	7	0.09	0.08	0.13	0.13
			3	14	0.06	0.06	0.14	0.14
			3	21	0.08	0.08	0.11	0.10

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
なし (露地) [果実]	10%フロアブル剤 2500倍 500L/10a 散布	青森りんご 試県南果樹 センター	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.27	0.26	0.34	0.33
			3	3	0.23	0.22	0.26	0.25
			3	7	0.29	0.29	0.24	0.24
			3	14	0.19	0.19	0.22	0.22
		徳島植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.15	0.15	0.17	0.17
			3	3	0.15	0.15	0.12	0.12
			3	7	0.12	0.12	0.16	0.16
			3	14	0.11	0.10	0.11	0.10
もも (露地) [果肉]	10%フロアブル剤 5000倍 400L/10a 散布	福島植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	0.02	0.02	<0.01	<0.01
			2	7	0.02	0.02	<0.01	<0.01
			2	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01
			2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	新潟園	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		2	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		2	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		2	21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
もも (露地) [果皮]	10%フロアブル剤 5000倍 400L/10a 散布	福島植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	3	1.74	1.67	1.11	1.10
			2	7	1.17	1.16	1.02	1.02
			2	14	0.99	0.98	0.60	0.60
			2	21	0.64	0.62	0.43	0.42
	新潟園	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		2	3	0.70	0.70	0.49	0.48	
		2	7	0.63	0.63	0.44	0.44	
		2	14	0.63	0.62	0.42	0.42	
		2	21	0.34	0.33	0.31	0.30	
もも (露地) [果肉]	10%フロアブル剤 5000倍 360L/10a 散布	青森植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	長野植 (須坂)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
		3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニリプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
もも (露地) [果皮]	10%フロアブル剤 5000倍 360L/10a 散布	青森植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	1.44	1.42	0.86	0.86
			3	3	0.48	0.48	0.79	0.78
			3	7	1.33	1.30	0.62	0.62
	3	14	0.93	0.90	0.36	0.35		
	10%フロアブル剤 5000倍 400L/10a 散布	長野植 (須坂)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	1.36	1.34	1.13	1.10
			3	3	1.36	1.30	0.56	0.54
3			7	0.63	0.62	0.76	0.76	
3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
ネクタリン (露地) [果実]	10%フロアブル剤 5000倍 400L/10a 散布	青森植	0	-	/	/	<0.01	<0.01
			2	3			0.11	0.11
			2	7			0.09	0.08
			2	14			0.08	0.08
			2	21			0.10	0.10
		福島植	0	-			<0.01	<0.01
			2	3			0.08	0.08
			2	7			0.08	0.08
			2	14			0.06	0.06
			2	21			0.07	0.06
あんず (露地) [果実]	10%フロアブル剤 2500倍 625L/10a 散布	青森り	0	-	<0.01	<0.01		
			3	3	0.63	0.62		
			3	7	0.52	0.52		
			3	14	0.50	0.49		
	3	21	0.47	0.45				
	10%フロアブル剤 2500倍 400L/10a 散布	長野植 (須坂)	0	-	<0.01	<0.01		
			3	3	0.29	0.28		
			3	7	0.28	0.28		
3			14	0.34	0.32			
3	21	0.18	0.18					
すもも (露地) [果実]	10%フロアブル剤 2500倍 500L/10a 散布	長野植 (須坂)	0	-	<0.01	<0.01		
			3	3	0.03	0.03		
			3	7	0.02	0.02		
			3	14	0.04	0.04		
			3	21	0.04	0.04		
		和歌山植	0	-	<0.01	<0.01		
			3	3	0.09	0.08		
			3	7	0.06	0.06		
			3	14	0.04	0.04		
			3	21	0.03	0.03		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
うめ (露地) [果実]	10%フロアブル剤 2500倍 313L/10a 散布	日植防 (山梨)	0	—	<0.01	<0.01	/	
			3	1	1.09	1.08		
			3	3	0.92	0.92		
			3	7	0.67	0.66		
			3	14	0.44	0.44		
	10%フロアブル剤 2500倍 400L/10a 散布	長野植 (南信)	0	—	<0.01	<0.01		
			3	1	0.59	0.59		
			3	3	0.58	0.57		
			3	7	0.45	0.44		
			3	14	0.32	0.32		
おうとう (施設) [果実]	10%フロアブル剤 2500倍 700L/10a 散布	山形	0	—	/		<0.01	<0.01
			3	3			0.39	0.38
			3	7			0.31	0.31
			3	14			0.25	0.24
			3	21			0.18	0.18
	10%フロアブル剤 2500倍 500L/10a 散布	長野植 (須坂)	0	—			<0.01	<0.01
			3	3			0.23	0.23
			3	7			0.22	0.22
			3	14			0.14	0.14
			3	21			0.13	0.13
おうとう (施設) [果実]	10%フロアブル剤 2500倍 417L/10a 散布	福島植	0	—	<0.01	<0.01		
			3	1	0.13	0.12		
			3	3	0.10	0.10		
			3	7	0.09	0.09		
			3	14	0.09	0.09		
	10%フロアブル剤 2500倍 450L/10a 散布	長野植防 (須坂)	0	—	<0.01	<0.01		
			3	1	0.19	0.18		
			3	3	0.18	0.18		
			3	7	0.12	0.12		
			3	14	0.16	0.16		
いちご (施設) [果実]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	日植防研 (牛久)	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.23	0.23	0.23	0.22
			2	7	0.16	0.16	0.11	0.11
		岐阜植	2	14	0.09	0.08	0.08	0.08
			2	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	1	0.31	0.30	0.15	0.14
			2	7	0.09	0.09	0.17	0.16
			2	14	0.10	0.10	0.10	0.10

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
ぶどう (無袋) (施設) [果実]	10%フロアブル剤 5000倍 300L/10a 散布	岩手植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.11	0.11	0.10	0.10
			3	3	0.16	0.16	0.10	0.10
			3	7	0.08	0.08	0.09	0.09
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	10%フロアブル剤 5000倍 500L/10a 散布	京都丹後	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.45	0.44	0.29	0.29
			3	3	0.52	0.51	0.36	0.35
			3	7	0.50	0.50	0.27	0.26
			3	14	0.41	0.41	0.31	0.30
かき (露地) [果実]	10%フロアブル剤 5000倍 500L/10a 散布	山形庄内 産地	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.07	0.07	0.05	0.05
			3	3	0.04	0.04	0.04	0.04
			3	7	0.04	0.04	0.04	0.04
			3	14	0.03	0.03	0.02	0.02
		岐阜植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.05	0.05	0.05	0.05
			3	3	0.06	0.06	0.06	0.06
			3	7	0.07	0.07	0.05	0.05
			3	14	0.07	0.07	0.04	0.04
茶 (露地) [荒茶]	10%フロアブル剤 2000倍 400L/10a 散布	野菜 茶業研 (静岡)	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	3	25.8	25.2	29.9	29.8
			1	7	20.7	20.6	25.4	24.8
			1	14	4.02	4.00	5.05	5.00
			1	21	0.36	0.35	0.34	0.34
		奈良植	0	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	3	29.3	29.0	38.8	38.6
			1	7	14.1	14.0	19.1	18.8
			1	14	4.49	4.48	5.79	5.66
			1	21	0.89	0.88	1.00	0.96
茶 (露地) [浸出液]	10%フロアブル剤 2000倍 400L/10a 散布	野菜 茶業研 (静岡)	0	-	/	/	<0.01	<0.01
			1	3			17.3	16.9
			1	7			13.2	13.0
			1	14			2.78	2.76
			1	21			0.24	0.24
		奈良植	0	-			<0.01	<0.01
			1	3			19.8	19.6
			1	7			9.48	9.47
			1	14			3.06	3.00
			1	21			0.51	0.51

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
バジル (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	愛知農試 (豊橋)	0	—	/	/	/	/
			3	1				
			3	3				
			3	7				
		愛知農試 (豊川)	0	—				
			3	1				
			3	3				
			3	7				
しそ (施設) [葉]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	愛知農試 (田原)	0	—	/	/	/	/
			3	1				
			3	3				
			3	7				
		高知農技 センター (南国)	0	—				
			3	1				
			3	3				
			3	7				
					—			
コリアン ダー (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 2000倍 176L/10a 散布	日植防 (茨城)	0	—	/	/	/	/
			1	3				
			1	7				
			1	14				
	5%フロアブル剤 2000倍 183L/10a 散布	日植防 (宮崎)	0	—				
			1	3				
			1	7				
			1	14				
					—			
あすっこ (露地) [花・花茎]	5%フロアブル剤 100倍 500mL ルトレイ灌注	島根農技セ (出雲)	0	—	/	/	/	/
			1	82				
			1	89				
			1	96				
	5%フロアブル剤 100倍 500mL ルトレイ灌注	島根農技セ (大田)	0	—				
			1	82				
			1	89				
			1	96				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
アマラン サス (露地) [茎葉]	5%フロアブル剤 2000倍 300L/10a 散布	岐阜農技セ (関)	0	—	<0.01	<0.01	—	
			3	1	4.85	4.83		
			3	3	2.13	2.11		
			3	7	1.49	1.44		
	3	14	0.35	0.34				
	5%フロアブル剤 2000倍 300L/10a 散布	岐阜農技セ (美濃)	0	—	<0.01	<0.01		
			3	1	3.30	3.25		
			3	3	1.58	1.52		
3			7	1.07	1.04			
3	14	0.14	0.14					
なばな (露地) [茎葉]	8.7%フロアブル剤 200倍 500mL/ セトトレイ灌注 及び 5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a	香川農試	0	—	<0.05	<0.05		
			1+3	1	1.03	1.00		
			1+3	3	0.92	0.91		
			1+3	7	0.82	0.81		
なばな (露地) [茎葉]	8.7%フロアブル剤 200倍 500mL/ セトトレイ灌注 及び 5%フロアブル剤 2000倍 250~300L/10a	香川農試	0	—	<0.025	<0.025		
			1+3	1	0.51	0.50		
			1+3	3	0.29	0.28		
			1+3	7	0.11	0.11		
らっきょう (露地) [鱗茎]	5%フロアブル剤 2000倍 300L/10a 散布	高知農技セ (黒潮)	0	—	<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01		
	5%フロアブル剤 2000倍 300L/10a 散布	高知農技セ (香南)	0	—	<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01		
いんげん まめ (露地) [乾燥子実]	5%フロアブル剤 4000倍 180L/10a 散布	日植防 (茨城)	0	—	<0.01	<0.01		
			2	7	<0.01	<0.01		
			2	14	<0.01	<0.01		
	5%フロアブル剤 4000倍 183L/10a 散布	日植防 (高知)	2	21	<0.01	<0.01		
			0	—	<0.01	<0.01		
			2	7	<0.01	<0.01		
			2	14	<0.01	<0.01		
			2	21	<0.01	<0.01		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					クロラントラニプロール			
					最大値	平均値	最大値	平均値
エンサイ (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	香川農試	0	—	<0.05	<0.05	—	
			2	1	6.19	6.12		
			2	3	6.52	6.50		
			2	7	6.53	6.30		
エンサイ (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 2000倍 200L/10a 散布	香川農試	0	—	<0.05	<0.05		
			2	1	3.73	3.64		
			2	3	2.95	2.89		
			2	7	1.30	1.29		
					—			
つるむら さき (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 2000倍 300L/10a 散布	徳島農試	0	—	<0.01	<0.01	—	
			3	1	1.40	1.38		
			3	3	0.63	0.62		
			3	7	0.10	0.10		
つるむら さき (施設) [茎葉]	5%フロアブル剤 2000倍 300L/10a 散布	徳島農試	0	—	<0.01	<0.01		
			3	1	2.21	2.20		
			3	3	1.26	1.18		
			3	7	0.45	0.45		
茎ブロッコ リー (露地) [花蕾及び 花茎]	5%フロアブル剤 100倍 500mL 10L/10a 灌注 及び 2000倍 200L/10a 散布	熊本県 保健環境 科学研究所	0	—	<0.05	<0.05	-	-
			4	1	0.35	0.35	-	-
			4	3	0.21	0.20	-	-
			4	7	0.21	0.20	-	-
茎ブロッコ リー (露地) [花蕾及び 花茎]	5%フロアブル剤 100倍 500mL 10L/10a 灌注 及び 2000倍 240-260L/10a 散布	茨城農試	0	—	-	-	<0.01	<0.01
			4	1	-	-	0.68	0.66
			4	3	-	-	0.64	0.64
			4	7	-	-	0.57	0.56

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

2. 乳汁残留試験など

(1)¹⁴C-標識クロラントラニプロールの産卵ニワトリ体内における代謝試験[参考]

(資料 代 6)

試験機関：

報告書作成年： [GLP 対応]

供試標識化合物： -クロラントラニプロール (-DPX-E2Y45)

化学名；3-ブロモ-N-[4-クロロ-2-メチル-6-(メチルカルバモイル)フェニル]-1-(3-クロロピリジン-2-イル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド

標識位置	(以下 標識体)	(以下 標識体)
構造式		
比放射能		
放射化学的純度		

*: ¹⁴C 標識位置

標識位置の ;
設定理由

及び ;
標識体混合
物投与の理
由

供試動物： ISA Brown 産卵ニワトリ、約 23 週齢、搬入時体重：1.59～2.07 kg

試験方法：

投 与

；クロラントラニプロールの 標識体及び 標識体をテトラヒドロフラン (THF) に溶解し、 μCi 比が[1 : 1]となるように混合した。投与量は馴化期間中の摂餌量測定結果に基づいて決定した。まず、ゼラチンカプセルに粉碎したニワトリ用飼料を半分満たし、正確に秤量した投与液をカプセルに充填して調製した。カプセルを一夜風乾させて溶媒を除去し、投与まで 4°C で保管した。ニワトリには 14 日間毎日 1 回、カプセルを用い

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

て経口投与した。実投与量は飼料中濃度と1日当たりの摂餌量をもとに算出した。

用量設定根拠 ;

用量計算法 ; THF に溶解した ^{14}C -クロラントラニリプロール投与液を 20 μCi /ニワトリ/日及び 10 $\mu\text{g/g}$ 飼料/日になるように調製した。標識体量は各ニワトリの投与開始前 10 日間 (投与前日を除く) の平均摂餌量から計算した。

動物番号	平均摂餌量 (g)	投与液量/カプセル (μL)	標識体量 (mg)
001F	152	221.9	1.47
002F	149	217.5	1.44
003F	177	258.4	1.71
004F	191	278.8	1.85
005F	92	134.3	0.89

試験構成 ; 試験群の構成を以下に示す。

群	動物数 (動物番号)	投 与	設定用量 ($\mu\text{g/g}$ 飼料)
1	5 (001F~005F)	及び 標識体を充填したカプセルを 14 日間毎日 1 回経口投与	10
2	2 (006F、007F)	カプセルのみを 14 日間毎日 1 回経口投与	0

試料採取 ;

排泄物 ; 排泄物試料は投与前から屠殺日 (Day 15) まで毎日 1 回採取した。排泄物採取後、各ケージはアセトン : 水 (1 : 1、v/v) 溶液で洗浄し、洗浄液は総放射能測定のために保存した。

卵 ; 卵は馴化開始日 (Day -14) から屠殺日 (Day 15) まで毎日 1 回採取した。卵はそれぞれ卵黄、卵白及び卵殻に分離した。卵殻については放射能を測定しなかった。

組織 ; 最終投与後約 23 時間 (Day 15) に投与群 5 羽、対照群 1 羽のニワトリを屠殺し、肝臓、筋肉、皮膚 (脂肪を含む)、腹腔内脂肪及び卵を採取した。

総残留放射能の測定 ; 肝臓、筋肉及び皮膚 (脂肪を含む) は乾燥させ、サンプルオキシダイザーで燃焼させた。遊離した二酸化炭素 ($^{14}\text{CO}_2$) を捕集して、シンチレーション溶液を加えて放射能を液体シンチレーション計測器 (LSC) を用いて

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

測定した。腹腔内脂肪はシンチレーション溶液に混合し、同様に LSC を用いて放射能を測定した。

代謝物の抽出・定量及び同定 ; 排泄物、卵黄、卵白、肝臓、筋肉及び皮膚 (脂肪を含む) 試料中の放射性成分を抽出した。さらに肝臓試料については、抽出法を改良し、
で抽出した。これらの抽出液の成分を UV 検出器及び放射能検出器付きの高速液体クロマトグラフィー(HPLC)で定量し、質量分析装置 (MS) 及び代謝物の標準品とのコクロマトグラフィーにより同定した。

結 果 :

- 1.体内分布 ; 排泄物、ケージ洗浄液、卵白及び卵黄の投与開始後の総残留放射能推移を表 1 に、排泄物中への累積放射能排泄を表 2 に、排泄物、ケージ洗浄液、卵白、卵黄及び組織中の総残留放射能を表 3 に示す。
- 投与開始後 336 時間 (14 日) の排泄物中への累積放射能排泄は 98.480% で、排泄物中への排泄が主要な排泄経路であった。ケージ洗浄液からは 5% の放射能が回収された。
- 排泄物、ケージ洗浄液、卵黄及び卵白の総残留放射能は投与放射能の 106.8% であった。
- 卵白の放射能濃度は投与開始後 120 時間 (5 日) で 1.327 $\mu\text{g/g}$ であり、残りの期間もほぼ同様な濃度で推移し、総回収率は 2.956% であった。
- 卵黄の放射能濃度は投与開始後徐々に増加し、投与開始後 192 時間 (8 日) には 0.557 $\mu\text{g/g}$ に達して平衡状態となり、総回収率は 0.382% であった。
- 組織中濃度では肝臓が最も高く 0.515 $\mu\text{g/g}$ を示し、筋肉、腹腔内脂肪及び皮膚 (脂肪を含む) はそれぞれ 0.022、0.035 及び 0.052 $\mu\text{g/g}$ であった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

表 1. 14 日間反復投与ニワトリにおける排泄物、ケージ洗浄液、卵白及び卵黄の総残留放射能
(濃度： μg 当量/g、割合：投与放射能に対する%)

投与開始 後時間	排泄物		ケージ洗浄液		卵白		卵黄	
	濃度	割合	濃度	割合	濃度	割合	濃度	割合
24	3.202	5.423	0.155	0.292	0.373	0.061	0.028	0.002
48	4.364	7.299	0.254	0.429	1.353	0.222	0.116	0.008
72	4.225	6.370	0.290	0.586	1.094	0.186	0.212	0.015
96	3.912	7.133	0.259	0.486	1.028	0.141	0.304	0.018
120	4.216	7.510	0.182	0.235	1.327	0.221	0.353	0.023
144	3.698	7.149	0.205	0.135	1.241	0.208	0.478	0.034
168	4.280	7.522	0.250	0.383	1.297	0.220	0.484	0.033
192	4.788	7.777	0.112	0.200	1.312	0.219	0.557	0.038
216	4.035	6.740	0.132	0.210	1.319	0.174	0.511	0.026
240	4.718	7.733	0.195	0.296	1.111	0.192	0.494	0.033
264	4.777	7.084	0.201	0.316	1.389	0.193	0.544	0.028
288	5.166	6.957	0.257	0.392	1.663	0.283	0.526	0.034
312	4.869	6.657	0.312	0.571	1.391	0.242	0.474	0.032
336	5.158	7.126	0.306	0.473	1.265	0.394	0.461	0.056
総回収率	-	98.480	-	5.003	-	2.956	-	0.382

- : 適用せず

表 2. 14 日間反復投与ニワトリにおける排泄物中排泄
(累積排泄量：投与放射能に対する%)

投与開始後時間	累積排泄量 (%)
24	75.921
48	89.054
72	89.094
96	91.785
120	94.457
144	95.395
168	96.811
192	98.320
216	97.881
240	98.919
264	98.942
288	98.813
312	98.381
336	98.480

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

3.代謝経路 ; クロラントラニリプロール[P]は産卵ニワトリ体内で主に以下の代謝経路で代謝されると推定された。

ニワトリにおけるクロラントラニリプロール[P]の推定代謝経路を以下に示す。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

ニワトリにおける推定代謝経路

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

(2) ^{14}C -標識クロラントラニリプロールを用いた泌乳ヤギ体内における代謝試験[参考]

(資料 代 7)

試験機関:

報告書作成年: [GLP 対応]

供試標識化合物: ^{14}C -クロラントラニリプロール (^{14}C -DPX-E2Y45)

化学名; 3-プロモ-N-[4-クロロ-2-メチル-6-(メチルカルバモイル)フェニル]-1-(3-クロロピリジン-2-イル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド

標識位置	(以下 標識体)	(以下 標識体)
構造式		
比放射能		
放射化学的純度		

*: ^{14}C 標識位置

標識位置の ;
設定理由

及び ;
標識体混合
物投与の理
由

供試動物: 英国ザーネン種ヤギ、約 15 カ月齢(投与時)、屠殺時体重: 41.5 kg

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

試験方法：

投与 ; クロラントラニリプロールの 標識体及び 標識体をテトラヒドロフラン (THF) に溶解し、 μCi 比が[1 : 1]となるように混合した。摂取飼料 1 kg 当り少なくとも 10 mg の検体が含まれるように投与した。馴化期間中の平均摂餌量(1.239 kg)に基づき、投与期間中に供試動物の摂餌量が増加した場合を考慮した上で、1 日当りの標識体実投与量を約 15 mg とした。2.283 mL の投与液 (標識体濃度 : 6.571 mg/mL) を予め粉碎ヤギ用飼料 0.5 g を充填したゼラチンカプセルに分注した後、溶媒を蒸発させて除去し投与まで 4°C で保管した。ヤギに 7 日間、投薬銃を用いて毎日 1 回、午前 9 時頃 (午前の搾乳直後) の給餌直前に強制経口投与した。

用量設定根拠 ;

試験構成 ; 反復経口投与試験の設計を以下に示す。

用量	投与回数及び経路	用量毎の動物数	検討項目	採取試料及び採取時期
10 mg/kg*/day	7 回反復経口投与	泌乳ヤギ 1 頭**	組織残留、組織分布及び代謝	組織 : 7 回目(最終)投与終了の約 23 時間後
			代謝及び排泄	尿、糞 : 初回投与前 1 回、投与開始後 24 時間間隔で 7 回 抽出用試料 : 投与 1 日目から 7 日目に採取した各試料の一部(尿 : 約 10% / 糞 : 約 5%) を混合した。
			排泄	ケージ洗浄液 : 投与開始後の糞採取後に採取した(7 回)。
			胆汁排泄	7 回目(最終)投与終了の約 23 時間後に胆嚢から採取した。
			乳汁移行	投与前及び投与期間を通じて 1 日 2 回採取(採取日の午後に採取した試料と翌日の午前に採取した試料とを混合した。) 抽出用試料 : 投与 1 日目から 7 日目に採取された各混合試料の一部(約 10%)を混合した。

* : 摂取飼料 1 kg 当り ** : 同一個体を使用した。

総残留放射能の測定 ; 尿、乳汁及びケージ洗浄液の放射能は抽出・希釈することなく液体シンチレーション計測器(LSC)を用いて測定した。胆汁は、燃焼後に遊離した $^{14}\text{CO}_2$ を捕集して LSC で測定した。固体試料の脂肪(大網、腎周囲及び皮下)の放射能は、ホモジナイズ後に LSC で測定した。固体試料の糞、肝臓、腎臓及び筋肉(腰部、前後肢)は、ホモジナイズして燃焼し、遊離した $^{14}\text{CO}_2$

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

を捕集して LSC で測定した。

代謝物の抽出・定量及び同定 ; 試料中代謝物の放射性成分を
で抽出した。これらの抽出液の成分を UV 検出器及び放射能検出器付きの高速液体クロマトグラフィー(HPLC)で定量するとともに、質量分析装置及び代謝物の標準品とのコクロマトグラフィーにより同定した。
肝臓については、

代謝物の定量及び同定を行った。

結 果 :

- 1.体内分布 ; 糞、尿、ケージ洗浄液及び乳汁の投与開始後の総残留放射能推移を表 1 に、累積放射能排泄を表 2 に、糞、尿、ケージ洗浄液、胆汁、乳汁及び組織中の総残留放射能を表 3 に示す。
投与開始後 7 日間の累積した糞、尿及びケージ洗浄液の総放射能は 93.57% で、糞及び尿中排泄が主要な排泄経路であった。
消化管内容物を含まない総残留放射能は投与放射能の 94.89% であった。
乳汁の放射能濃度は投与開始後 2 日目と 3 日目の間で最高 0.081 $\mu\text{g/g}$ に達した後減少し、投与後 7 日目の試料では 0.047 $\mu\text{g/g}$ であった。また、総回収率は 0.79% であった。胆汁の総回収率は 0.07% であった。
可食組織中の総残留放射能濃度では肝臓が最も高く 0.640 $\mu\text{g/g}$ を示し、筋肉、脂肪 (平均値) 及び腎臓ではそれぞれ 0.017、0.068 及び 0.090 $\mu\text{g/g}$ であった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

表 1. 7日間反復投与泌乳ヤギにおける糞、尿、ケージ洗浄液及び乳汁の総残留放射能
(濃度： μg 当量/g、割合：投与放射能に対する%)

投与日数	糞		尿		ケージ洗浄液		乳汁	
	濃度	割合	濃度	割合	濃度	割合	濃度	割合
1	8.376	5.91	3.009	1.23	0.281	0.42	0.070	0.12
2	16.696	11.38	2.284	2.44	0.451	0.69	0.080	0.14
3	19.111	12.14	2.051	1.52	0.452	0.72	0.081	0.14
4	23.454	12.26	2.615	0.39	0.774	1.22	0.065	0.11
5	22.211	12.48	2.162	1.90	0.546	0.31	0.054	0.09
6	20.362	12.24	2.172	1.76	0.332	0.23	0.057	0.10
7	20.567	12.52	1.513	1.50	0.259	0.33	0.047	0.08
総回収率	-	78.93	-	10.73	-	3.91	-	0.79

- : 適用せず

表 2. 7日間反復投与泌乳ヤギにおける糞、尿、ケージ洗浄液及び乳汁中放射能累積排泄量
(累積排泄量：投与放射能に対する%)

投与日数	糞(%)	尿(%)	ケージ洗浄液(%)	乳汁(%)
1	41.363	8.574	2.911	0.854
2	60.527	12.822	3.878	0.906
3	68.675	12.093	4.263	0.930
4	72.965	9.755	5.325	0.894
5	75.843	10.466	4.690	0.846
6	77.477	10.772	4.171	0.822
7	78.925	10.730	3.906	0.786

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

表 3. 7日間反復投与泌乳ヤギにおける総残留放射能

試料	濃度 (µg 当量/g)	投与放射能に対する%
糞	-	78.93
尿	-	10.73
ケージ洗浄液	-	3.91
胆汁	2.406	0.07
乳汁	0.067	0.79
肝臓	0.640	0.45
腎臓	0.090	0.01
筋肉	0.017	-
大網脂肪	0.070	-
腎周囲脂肪	0.067	-
皮下脂肪	0.068	-
総回収率	-	94.89

- : 適用せず

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

3.代謝経路 ; クロラントラニリプロール[P]は泌乳ヤギ体内で主に以下の経路で代謝されると推定された。

泌乳ヤギにおけるクロラントラニリプロール[P]の推定代謝経路を以下に示す。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

泌乳ヤギにおける推定代謝経路

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

(3)クロラントラニプロールの乳牛における残留試験

(資料 残1)

試験機関:

報告書番号:

報告書作成年: [GLP 対応]

被験物質: クロラントラニプロール原体

化学名; 3-ブromo-N-[4-クロロ-2-メチル-6-(メチルカルバモイル)フェニル]-1-(3-クロロピ
リジン-2-イル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド

被験物質純度:

供試動物: ホルスタイン種牛、投与時3~7 齢、1 群雌3 頭 (減衰試験は2 頭)

試験開始時体重 550~750kg

試験方法:

投 与; 供試動物に、ゼラチンカプセルに封入した被験物質を含有する飼料を28 日間に
わたり摂食させた。ゼラチンカプセルには被験物質をそのまま封入した。投与用
量は飼料乾燥重量あたり1、3、10 及び50 mg/kg の4 用量を設け、1 日2 回摂取さ
せた。また、別の2 動物に50 mg/kg 用量の試料を給餌し減衰試験を実施した。
投与の概要を表1 に示す。

表1. 投与の概要

投与群		乳試料 採取	平均乳生産量 (kg/牛/日)	最終投与から 屠殺までの 時間	採取及び 分析組織
残留 調査	対照区	1日2回、 約830及び 1630時間	13.740	24時間以内	肝臓、腎臓、 脂肪及び筋肉
	1mg/kg (1X)		15.557		
	3mg/kg (3X)		15.664		
	10mg/kg (10X)		13.049		
	50mg/kg (50X)		12.187		
減衰 試験	50mg/kg (50X)		15.694	9、23日	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

試料採取：各動物について、投与1、3、5、7、10、14、17、21、24及び28日目に搾乳し、午後搾乳した乳は翌日朝に搾乳した乳とあわせた。投与1、3、5、7、10、14、21及び28日目の乳試料について、クロラントラニリプロール及び代謝物の濃度を測定した。減衰試験群については、上記に加え、最終投与1、3、5、7、10及び14日後についても搾乳を行い、投与終了1、3、5及び7日後の乳試料中のクロラントラニリプロール及び代謝物濃度を測定した。

投与14及び21日目に搾乳した乳からクリーム及びスキムミルクを調製し、クロラントラニリプロール及び代謝物の残留量を測定した。

最終投与の23～24時間後に、対照群及び減衰試験群を除く全動物を屠殺した。減衰試験群2動物のうち1動物は最終投与9日後に、残り1動物は最終投与23日後に屠殺した。全屠殺動物より肝臓、腎臓、筋肉及び脂肪試料を採取し、組織中に残留するクロラントラニリプロール及び代謝物の濃度を測定した。

試料の抽出・分析:乳及びクリーム試料は

試料中のクロラントラニリプロール及び代謝物を、LC-MS/MSを用いて定量した。

結果及び考察：

乳及びスキムミルク、クリーム；1mg/kg投与群の乳試料からは、クロラントラニリプロールを含むいずれの分析対象化合物も検出されなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

表 2. 乳試料における最大残留値(反復の平均値の最大値、親化合物当量 mg/kg)

試料	分析対象		1 mg/kg群	3 mg/kg群	10 mg/kg群	50 mg/kg群
	クロラントラニプロール	P	<0.003	<0.003	0.006	0.027
乳						

表 3. クリーム及びスキムミルク試料における残留値(親化合物当量 mg/kg)

試料	分析対象		1 mg/kg群		3 mg/kg群		10 mg/kg群		50 mg/kg群	
	試料採取(日目)		14	21	14	21	14	21	14	21
クリーム	クロラントラニプロール	P	0.004	0.004	0.008	0.015	0.027	0.025	0.13	0.086
			<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	0.003	0.003	0.018	0.013
スキムミルク										

組織中残留；本試験において、クロラントラニプロールは肝臓及び脂肪に多く分布し（50mg/kg 群において肝臓で最大 0.13mg/kg、脂肪で最大 0.14mg/kg）、次いで腎臓（最大 0.068mg/kg、50mg/kg 群）、筋肉（最大 0.019mg/kg、50mg/kg 群）となった。3mg/kg 以上の用量群では代謝物もみられたが、主要な残留成分はクロラントラニプロールであった。

表 4. 各組織におけるクロラントラニプロール及び代謝物残留値(親化合物当量 mg/kg)

試料	分析対象		1 mg/kg群	3 mg/kg群	10 mg/kg群	50 mg/kg群
筋肉	クロラントラニプロール	P	<0.003	0.003	0.007	0.019
肝臓	クロラントラニプロール	P	0.004	0.010	0.029	0.13

(次頁に続く)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

表 4. 各組織におけるクロラントラニプロール及び代謝物残留値(親化合物当量 mg/kg) (続き)

試料	分析対象		1 mg/kg群	3 mg/kg群	10 mg/kg群	50 mg/kg群
腎臓	クロラントラニプロール	P	<0.003	0.006	0.022	0.068
	クロラントラニプロール	P	0.003	0.009	0.029	0.14

減衰試験；投与終了後は乳中の残留成分濃度は減少し、投与終了3日後に採取した乳からは、いずれの分析対象化合物についても検出されなかった。

表 5. 乳における減衰試験結果(減衰試験群：50mg/kg 投与、親化合物当量 mg/kg)

試料	分析成分		投与期間中 最大残留値 (試料採取日)	投与終了 1日後	投与終了 3日後	投与終了 5日後	投与終了 7日後
乳	クロラントラニプロール	P	0.028 (14日)	0.012	<0.003	<0.003	<0.003

表 6. 各組織における減衰試験結果(減衰試験群：50mg/kg 投与、親化合物当量 mg/kg)

試料	分析成分		投与終了9日後*	投与終了23日後**
筋肉	クロラントラニプロール	P	<0.003	<0.003
肝臓	クロラントラニプロール	P	0.004	<0.003

*：動物番号 16、**：動物番号 17

(次頁に続く)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

表 6. 各組織における減衰試験結果(減衰試験群：50mg/kg 投与、親化合物当量 mg/kg) (続き)

試料	分析成分		投与終了9日後*	投与終了23日後**
腎臓	クロラントラニプロール	P	<0.003	<0.003
脂肪	クロラントラニプロール	P	<0.003	<0.003

*：動物番号 16、**：動物番号 17

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

(2) クロラントラニリプロールの産卵鶏における残留試験

(資料 残2)

試験機関:

報告書番号:

報告書作成年: [GLP 対応]

被験物質: クロラントラニリプロール原体

化学名; 3-ブromo-N-[4-クロロ-2-メチル-6-(メチルカルバモイル)フェニル]-1-(3-クロロピ
リジン-2-イル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド

被験物質純度:

供試動物: ISA ワーレン種ニワトリ、投与時 25 週齢、1 群雌 10 羽

試験開始時体重 1.642~2.218 kg

試験方法:

投与; 少なくとも 14 日間馴化させた供試動物に、ゼラチンカプセルに封入した被験物質を含有する飼料を 28 日間にわたり摂食させた。ゼラチンカプセルには被験物質をそのまま封入した。対照区動物には、被験物質を含まないゼラチンカプセルを与えた。投与用量は飼料乾燥重量あたり 3、9 及び 30 mg/kg の 3 用量を設け、1 日 1 回摂取させた。また、別の 1 群に 30 mg/kg 用量の飼料を給餌し減衰試験を実施した。

投与の概要を表 1 に示す。

表1. 投与の概要

投与群及び投与量*		卵試料採取	平均産卵数 (卵数/羽/週)	最終投与から 屠殺までの 時間	採取及び 分析組織
残留調査	対照区	1日2回、 午前及び 午後	5	約4~5時間	肝臓、腹部脂肪(皮膚付き) 及び筋肉
	3mg/kg (1X)		5		
	9mg/kg (3X)		5		
	30mg/kg (10X)		5		
減衰試験	30mg/kg (10X)		4	約2日間	
				約5日間	
				約8日間	

*: 飼料乾燥重量 (kg) あたりの被験物質投与量

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

試料採取：各動物について1日2回採卵した。採取した卵試料はプールし、投与-3、1、4、7、10、14、17、21、及び27日目にクロラントラニプロール及び代謝物の濃度を測定した。投与14及び21日目に採取した卵試料は卵黄及び卵白に分け、それぞれ各成分の残留量を調査した。減衰試験群からは投与27、28日目並びに最終投与1～7日後に採卵し、全卵試料中のクロラントラニプロール及び代謝物濃度を測定した。

最終投与の4～5時間後に、対照群及び減衰試験群を除く全動物を屠殺した。減衰試験群は最終投与2、5及び8日後に屠殺した。全屠殺動物より肝臓、筋肉及び脂肪（皮膚つき）試料を採取し、組織中に残留するクロラントラニプロール及び代謝物の濃度を測定した。

試料の抽出・分析：卵試料は

試料中のクロラントラニプロール及び代謝物

結果及び考察：

被験物質摂取量； 設定用量の算出には順化期間中の摂餌量を用いたが、順化期間中の摂餌量が投与期間中と比較して低かった。このため、摂餌量から算出された各群の被験物質摂取量は3mg/kg、9mg/kg、30mg/kgの各用量群及び減衰試験群(30mg/kg)で順に3.900～4.535 mg/kg、14.457～17.442 mg/kg、40.247～50.701 mg/kg 及び45.929～49.418 mg/kg であり、いずれの群も設定用量よりも高かった。

卵； いずれの全卵試料からも、クロラントラニプロール及び分析対象とした代謝物が検出された。投与10日目までは残留濃度が増加する傾向がみられたが、その後はほぼ同様の濃度で推移した。

各群において、最大の残留濃度を示した成分は親化合物クロラントラニプロールであり、最大値は3mg/kg、9mg/kg 及び30mg/kgの各用量群で順に0.132、0.296 及び0.447 mg/kgであった。

投与14及び21日目における卵黄、卵白試料では、いずれの採取日、いずれの成分も卵白においてより高濃度で分布していた。卵白では主要な残留成分は親化合物クロラントラニプロールであったが、卵黄ではクロラントラニプロール、同程度存在していた。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

表 2. 全卵試料における各成分残留値（親化合物当量 mg/kg）

用量	試料採取時間	分析対象化合物	
		クロラントラニ プロール	
		P	
3 mg/kg群	1日目	0.0433	
	4日目	0.0863	
	7日目	0.113	
	10日目	0.119	
	14日目	0.114	
	17日目	0.0949	
	21日目	0.100	
	27日目	0.132	
9 mg/kg群	1日目	0.0220	
	4日目	0.196	
	7日目	0.133	
	10日目	0.184	
	14日目	0.296	
	17日目	0.146	
	21日目	0.194	
	27日目	0.105	
30 mg/kg群	1日目	0.0309	
	4日目	0.312	
	7日目	0.260	
	10日目	0.439	
	14日目	0.417	
	17日目	0.419	
	21日目	0.447	
	27日目	0.300	

対照区試料はいずれの成分、いずれの時点においても検出限界（0.003mg/kg）未満であった。

表 3. 卵黄及び卵白試料における残留値（親化合物当量 mg/kg）

試料	分析対象		用量/ 試料採取(日目)					
			3 mg/kg群		9 mg/kg群		30 mg/kg群	
			14	21	14	21	14	21
卵黄	クロラントラニプロール	P	0.0248	0.0280	0.0818	0.0606	0.160	0.125
卵白	クロラントラニプロール	P	0.138	0.146	0.407	0.246	0.595	0.625

組織中残留；筋肉、肝臓及び脂肪における主用残留成分であった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

表 4. 各組織におけるクロラントラニプロール及び代謝物残留値（親化合物当量 mg/kg）

試料	分析対象		3 mg/kg群	9 mg/kg群	30 mg/kg群
筋肉	クロラントラニプロール	P	0.0110	0.0271	0.0491
	クロラントラニプロール	P	0.0379	0.0918	0.147
	クロラントラニプロール	P	0.0425	0.0957	0.168

ND：検出限界（0.003mg/kg）未満

減衰試験；投与終了後、全卵中の残留成分濃度は速やかに減少し、投与終了7日後にはいずれの分析対象化合物も定量限界未満となった。組織中残留の減衰は全卵よりも速やかであり、投与終了2日後には全分析対象化合物ともいずれの組織においても0.05mg/kg未満となり、特に筋肉では定量限界未満となった。また、投与終了8日後には全組織において全分析対象化合物とも定量限界未満となった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

表 5. 全卵における減衰試験結果 (減衰試験群 : 30mg/kg 投与、親化合物当量 mg/kg)

分析成分		投与期間中 最大残留値 (試料採取日)	投与最終日 (試験28日目)	投与終了 1日後 (試験29日目)	投与終了 5日後 (試験33日目)	投与終了 7日後 (試験35日目)
クロラントラニブ [®] ロール	P	0.447 (21日)	0.331	0.118	0.0170	<0.01

ND : 検出限界 (0.003mg/kg) 未満

表 6. 各組織における減衰試験結果 (減衰試験群 : 30mg/kg 投与、親化合物当量 mg/kg)

試料	分析成分		投与終了2日後	投与終了8日後
筋肉	クロラントラニブ [®] ロール	P	<0.01	ND
	クロラントラニブ [®] ロール	P	0.0363	ND
	クロラントラニブ [®] ロール	P	0.0308	<0.01

ND : 検出限界 (0.003mg/kg) 未満

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

3. 土壌残留

1) 分析法の原理と操作概要

畑地： 試料を

高速液体クロマトグラフ質量分析計(LC/MS)

を用いて定量する。

水田： 試料を

でクロラントラニリプロール

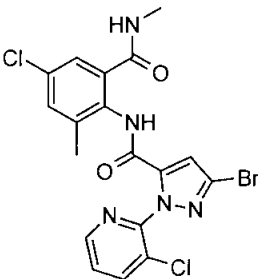
と代謝物

を分画する。

高速液体クロマトグラフィー質量分析計(LC/MS)を用

いて定量する。

2)分析対象化合物

名称	化学名、分子式(分子量)	構造式	代謝経路図 中での記号
クロラントラ ニリプロール [P]	3-ブロモ-N-[4-クロロ-2-メチル-6-(メチルカルバモイル)フェニル]-1-(3-クロロピリジン-2-イル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド C ₁₈ H ₁₄ BrCl ₂ N ₅ O ₂ (483.15)		P

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

3)残留試験結果

(1)畑地状態圃場試験

推定半減期：	親化合物	火山灰土	約 149 日
		風積土	約 165 日
	親化合物+代謝物	火山灰土	約 161 日
		風積土	約 166 日

分析機関：

試料調製 及び 採取場所 [土壌種] 年度	被験物質の 処理方法		経過 日数	分析値 (クロラントラニリプロール換算値、mg/kg)			平均値 の合計
				クロラントラニ リプロール[P]		代謝分解物	
	濃度	回数		最高値	平均値		
日植防研 (牛久) [火山灰土・ 軽埴土]	5% 水和剤 333 倍 300L/10a	0	-	<0.005	<0.005		
		4	0	1.18	1.16		
		4	1	1.29	1.26		
		4	7	1.15	1.14		
		4	14	1.14	1.12		
		4	28	1.30	1.25		
		4	56	0.684	0.678		
		4	84	0.732	0.726		
		4	112	0.671	0.661		
		4	140	0.715	0.688		
		4	168	0.531	0.524		
		4	252	0.483	0.478		
		4	336	0.466	0.458		
日植防研 (宮崎) [風積土・ 砂土]	散布(1回) 及び 1000 倍 300L/10a 散布(3回)	0	-	<0.005	<0.005		
		4	0	0.678	0.660		
		4	1	0.590	0.588		
		4	7	0.574	0.570		
		4	14	0.600	0.594		
		4	28	0.502	0.496		
		4	56	0.508	0.488		
		4	84	0.424	0.422		
		4	112	0.446	0.438		
		4	140	0.560	0.556		
		4	168	0.296	0.296		
		4	252	0.058	0.058		
		4	336	0.035	0.034		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

(2)畑地状態容器内試験

推定半減期：	親化合物	火山灰土	約 327 日
		風積土	約 - 日
	親化合物+代謝物	火山灰土	約 - 日
		風積土	約 - 日

分析機関：

試料調製 及び 採取場所 [土壌種] 年度	被験物質の 処理方法		経過 日数	分析値（クロラントラニ リプロール換算値、mg/kg）			平均値 の合計
				クロラントラニ リプロール[P]		代謝分解物	
	濃度	回数		最高値	平均値		
日植防研 (牛久) [火山灰土・ 軽埴土]	純品	0	-	<0.005	<0.005		
		1	0	0.899	0.892		
		1	1	0.806	0.780		
		1	7	0.822	0.805		
		1	14	0.773	0.761		
		1	28	0.714	0.710		
		1	56	0.653	0.642		
		1	84	0.655	0.654		
		1	112	0.579	0.564		
		1	140	0.632	0.630		
		1	168	0.648	0.620		
	1	252	0.498	0.494			
	1	365	0.424	0.422			
日植防研 (宮崎) [風積土・ 砂土]	1.0 mg/kg	0	-	<0.005	<0.005		
		1	0	0.845	0.836		
		1	1	0.861	0.831		
		1	7	0.903	0.885		
		1	14	0.862	0.857		
		1	28	0.854	0.854		
		1	56	0.794	0.785		
		1	84	0.793	0.786		
		1	112	0.716	0.713		
		1	140	0.819	0.792		
		1	168	0.780	0.768		
		1	252	0.703	0.700		
		1	365	0.599	0.586		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

(3)水田状態圃場試験

推定半減期：	親化合物	火山灰土	約 2 日
		沖積土	約 6 日
	親化合物+代謝物	火山灰土	約 2 日
		沖積土	約 29 日

分析機関：

試料調製 及び 採取場所 [土壌種] 年度	被験物質の 処理方法		経過 日数	分析値 (クロラントラニリプロール換算値、mg/kg)			平均値 の合計
				クロラントラニリ プロール[P]		代謝分解物	
	濃度	回数		最高値	平均値		
日植防研 (牛久) [火山灰土・ 軽埴土]	1%粒剤 1kg/10a 散布	0	-	<0.002	<0.002		
		1	0	0.315	0.304		
		1	1	0.854	0.849		
		1	3	0.209	0.208		
		1	7	0.143	0.140		
		1	14	0.215	0.213		
		1	28	0.105	0.102		
		1	56	0.087	0.086		
		1	84	0.089	0.085		
		1	112	0.082	0.080		
		1	140	0.087	0.086		
日植防研 (高知) [沖積土・ 埴壤土]	1%粒剤 1kg/10a 散布	0	-	<0.002	<0.002		
		1	0	0.128	0.126		
		1	1	0.281	0.266		
		1	3	0.156	0.153		
		1	7	0.123	0.122		
		1	14	0.091	0.091		
		1	28	0.134	0.130		
		1	56	0.080	0.078		
		1	84	0.078	0.078		
		1	112	0.038	0.038		
		1	140	0.044	0.042		
1	168	0.038	0.038				
1	252	0.034	0.034				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

4. 後作物残留

1)分析法の原理と操作概要

①畑地後作物

だいこん(根部)、はくさい、キャベツ
試料を

高速液体クロマトグラフィー質量分析計(LC/MS)を用いて定量する。

だいこん(葉部)
試料を

高速液体クロマトグラフ

質量分析計(LC/MS)を用いて定量する。

②水田後作物

だいこん(根部、葉部)
試料を

高速液体

クロマトグラフィー (UV 検出器) を用いて定量する。

小麦

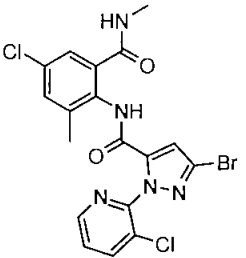
試料を

高速液体クロマトグラフィー質量分析計 (LC/MS) を

用いて定量する。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

2)分析対象化合物

名称	化学名、分子式(分子量)	構造式	代謝経路図 中での記号
クロラント ラニリプロ ール[P]	3-ブromo-N-[4-クロロ-2-メチル-6-(メチルカルバモイル)フェニル]-1-(3-クロロピリジン-2-イル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド C ₁₈ H ₁₄ BrCl ₂ N ₅ O ₂ (483.15)		P

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

3) 残留試験結果(畑地)

分析機関：

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)		
					クロラントラニプロール[P]		
					最大値	平均値	
だいこん (露地) [根部] 前作物：なす	5%水和剤 定植時灌注： 100倍 65mL/株 及び 生育期散布： 1000倍 300L/10a	日植防研 (宮崎)	0	-	<0.01	<0.01	
			4	113	<0.01	<0.01	
だいこん (露地) [葉部] 前作物：なす	5%水和剤 定植時灌注： 100倍 65mL/株 及び 生育期散布： 1000倍 300L/10a	日植防研 (宮崎)	0	-	<0.01	<0.01	
			4	113	<0.01	<0.01	
だいこん (露地) [根部] 前作物：きゅうり	5%水和剤 定植時灌注： 100倍 90L/10a 及び 生育期散布： 1000倍 300L/10a	日植防研 (牛久)	0	-	<0.01	<0.01	
			4	57	<0.01	<0.01	
	5%水和剤 定植時灌注： 100倍 90L/10a 及び 生育期散布： 1000倍 300L/10a	長野植防 (松代)	0	-	<0.01	<0.01	
			4	54	<0.01	<0.01	
だいこん (露地) [葉部] 前作物：きゅうり	5%水和剤 定植時灌注： 100倍 90L/10a 及び 生育期散布： 1000倍 300L/10a	日植防研 (牛久)	0	-	<0.01	<0.01	
			4	57	<0.01	<0.01	
	5%水和剤 定植時灌注： 100倍 90L/10a 及び 生育期散布： 1000倍 300L/10a	長野植防 (松代)	0	-	<0.01	<0.01	
			4	54	<0.01	<0.01	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製 場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)		
					クロラントラニプロール[P]		
					最大値	平均値	
キャベツ (露地) [葉球] 前作物: なす	5%水和剤 定植時灌注: 100倍 65mL/株 及び 生育期散布: 1000倍 300L/10a	日植防研 (宮崎)	0	-	<0.01	<0.01	
			4	126	<0.01	<0.01	
キャベツ (露地) [葉球] 前作物: きゅうり	5%水和剤 定植時灌注: 100倍 90L/10a 及び 生育期散布: 1000倍 300L/10a	日植防研 (牛久)	0	-	<0.01	<0.01	
			4	57	<0.01	<0.01	
はくさい (露地) [茎葉] 前作物: きゅうり	5%水和剤 定植時灌注: 100倍 90L/10a 及び 生育期散布: 1000倍 300L/10a	長野植防 (松代)	0	-	<0.01	<0.01	
			4	54	<0.01	<0.01	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

4) 残留試験結果(水田)

分析機関：

作物名 (栽培形態) [分析部位] 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分析結果 (ppm)		
					クロラントラニプロール[P]		
					最大値	平均値	
だいこん [根部] 前作物：水稲	1%粒剤 製品 1kg/10a	日植防研 (牛久)	0	-	<0.01	<0.01	
			1	71	<0.01	<0.01	
だいこん [葉部] 前作物：水稲	1%粒剤 製品 1kg/10a	日植防研 (牛久)	0	-	<0.01	<0.01	
			1	71	<0.01	<0.01	
小麦 [玄麦] 前作物：水稲	1%粒剤 製品 1kg/10a	日植防研 (牛久)	0	-	<0.01	<0.01	
			1	202	<0.01	<0.01	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

5. 水質汚濁性

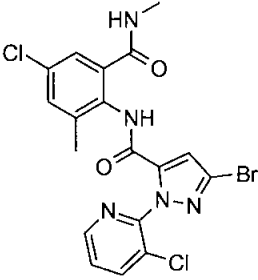
1) 分析法の原理と操作概要

水試料を

高速液体クロマトグラフィー(UV 検出器)を

用いて定量する。

2) 分析対象化合物

名称	化学名、分子式(分子量)	構造式	代謝経路図 中での記号
クロラントラニ リプロール[P]	3-ブロモ-N-[4-クロロ-2-メチル-6-(メ チルカルバモイル)フェニル]-1-(3-ク ロロピリジン-2-イル)-1H-ピラゾール -5-カルボキサミド C ₁₈ H ₁₄ BrCl ₂ N ₅ O ₂ (483.15)		P

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

3) 残留試験結果

(1) 田面水

分析機関：

試料調製及び採取場所 年度	被験物質の 処理方法 濃度・量	使用 回数	経過 日数	分析値 (クロラントラニリプロール換算値、mg/L)		平均値の 合計	
				クロラントラニリ プロール[P]			代謝分解物
				最高値	平均値		
残留農薬 研究所 (灰色低地土) 軽埴土	1.0%粒剤 50g/育苗箱 散布	0	-	<0.0005	<0.0005		
		1	0	0.0477	0.0477		
		1	1	0.0317	0.0316		
		1	3	0.0199	0.0196		
		1	7	0.0033	0.0033		
		1	14	0.0006	0.0006		
残留農薬 研究所 (多湿黒ボク土) 埴壤土	1.0%粒剤 50g/育苗箱 散布	0	-	<0.0005	<0.0005		
		1	0	0.0576	0.0575		
		1	1	0.0356	0.0354		
		1	3	0.0177	0.0176		
		1	7	0.0026	0.0026		
		1	14	0.0005	0.0005		

(2) 浸透水

分析機関：

試料調製及び採取場所 年度	被験物質の 処理方法 濃度・量	使用 回数	経過 日数	分析値 (クロラントラニリプロール換算値、mg/L)		平均値の 合計	
				クロラントラニリ プロール[P]			代謝分解物
				最高値	平均値		
残留農薬 研究所 (灰色低地土) 軽埴土	1.0%粒剤 50g/育苗箱 散布	0	-	<0.0005	<0.0005		
		1	0	<0.0005	<0.0005		
		1	7	<0.0005	<0.0005		
		1	14	<0.0005	<0.0005		
残留農薬 研究所 (多湿黒ボク土) 埴壤土	1.0%粒剤 50g/育苗箱 散布	0	-	<0.0005	<0.0005		
		1	0	<0.0005	<0.0005		
		1	7	<0.0005	<0.0005		
		1	14	<0.0005	<0.0005		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

VI. 有用動植物等に及ぼす影響

1. 水産動植物に対する影響

No.	試験の種類・ 被験物質	供試生物	1群当り の供試数	試験 方法	試験 水温 (°C)	LC ₅₀ 又はEC ₅₀ 値(mg/L)				試験機関 (報告年)	頁
						24h	48h	72h	96h		
1 GLP	魚類 急性毒性試験 原体(%)	コイ	10尾	半止水	22.8 ～ 23.0	>15.0	>15.0	>15.0	>15.0		VI -3
2 GLP	ミジンコ類 急性遊泳 阻害試験 原体(%)	オシロイ	20頭 (5頭 4反復)	止水	20.5 ～ 21.0	17.5 * (µg/L)	11.6 * (µg/L)				VI -5
3 GLP	ヌカエビ 急性毒性試験 原体(%)	ヌカエビ	10匹	止水	21.1 ～ 22.5	1.1 *	0.83 *	0.74 *	0.68 *		VI -6
4 GLP	ユスリカ幼虫 急性毒性試験 原体(%)	セスジ ユスリカ	20個体 (5個体 4反復)	止水	19.7 ～ 19.8		85.9 * (µg/L)				VI -8
5 GLP	藻類 生長阻害試験 原体(%)	緑藻 <i>Pseudokir- chneriella subcapitata</i>	初期濃度 3000 cells/mL	振とう 培養法	24.8	EbC ₅₀ : >2 mg/L ErC ₅₀ : (0-72h) >2 mg/L					VI -9
6 GLP	魚類 急性毒性試験 水和剤(10%)	コイ	10尾	止水	21.2 ～ 21.8	47	45	45	45		VI -11
7 GLP	ミジンコ類 急性遊泳 阻害試験 水和剤(10%)	オシロイ	20頭 (5頭 4反復)	止水	19.2 ～ 20.1	0.69 (µg/L)	0.56 (µg/L)				VI -13
8 GLP	藻類 生長阻害試験 水和剤(10%)	緑藻 <i>Pseudokir- chneriella subcapitata</i>	初期濃度 1×10 ⁴ cells/mL	振とう 培養法	21.4 ～ 22.6	EbC ₅₀ : (0-72h) 9.3 ErC ₅₀ : (24-48h) 9.3 (24-72h) 13 (0-72h) 18					VI -14
9 GLP	魚類 急性毒性試験 粒剤(1%)	コイ	10尾	止水	22.8 ～ 23.1	>1000	>1000	>1000	>1000		VI -15
10 GLP	ミジンコ類 急性遊泳 阻害試験 粒剤(1%)	オシロイ	20頭 (5頭 4反復)	止水	19.8 ～ 19.9	20.8 (µg/L)	14.6 (µg/L)				VI -16
11 GLP	藻類 生長阻害試験 粒剤(1%)	緑藻 <i>Pseudokir- chneriella subcapitata</i>	初期濃度 10 ⁴ cells/mL	振とう 培養法	22.2 ～ 23.6	EbC ₅₀ : (0-72h) >1000 ErC ₅₀ : (24-48h) >1000 (48-72h) >1000					VI -17

* 平均実測濃度に基づく LC₅₀/EC₅₀ 値

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任はエフエムシー・ケミカルズ株式会社にある。

1. 水産動植物に対する影響 (続き)

No.	試験の種類・ 被験物質	供試生物	1群当り の供試数	試験 方法	試験 水温 (°C)	LC ₅₀ 又は EC ₅₀ 値(mg/L)				試験機関 (報告年)	頁
						24h	48h	72h	96h		
13 GLP	魚類 急性毒性試験 粒剤(0.5%)	コイ	7尾	止水	22.9 ~ 23.4	>1000	>1000	>1000	>1000		VI -18
14 GLP	ミジンコ類 急性遊泳 阻害試験 粒剤(0.5%)	材ジソコ	20頭 (5頭 4反復)	止水	19.8	0.033	0.032				VI -19
15 GLP	藻類 生長阻害試験 粒剤(0.5%)	緑藻 <i>Pseudokir- chneriella subcapitata</i>	初期濃度 10 ⁴ cells/mL	振とう 培養法	21.4 ~ 21.8	ErC ₅₀ : (0-72h) >1000 NOECr : ≥1000					VI -20

参考 (原体)

										頁	
											VI -21

* 平均実測濃度に基づく LC₅₀/EC₅₀ 値